

I. 教育課程の考え方

看護はあらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和等を行い、生涯を通して最期までその人らしく生を全うできるように援助を行うことを目的としている。わが国では、医療の高度化、保健・医療・福祉の充実などにより平均寿命が延伸した一方で、出生数は減少し、少子高齢化が進展している。そして、団塊の世代が75歳以上になる2025年には、さらに高齢化が進み、世界に例の無い超高齢多死社会を迎えることとなる。このような状況をふまえ、医療は、高度急性期から慢性期までの病床の機能分化や在宅医療を推進し、介護との連携や多職種協働を強化し、「病院完結型」から「地域完結型」へと変遷している。それに伴い、看取りの場は、治療の場である医療施設から生活の場である介護施設や在宅へと変化している。少子高齢化の急速な進行や疾病構造・社会環境の変化の中で、看護へのニーズは増大し、時代や社会の変化に伴い、看護基礎教育のあり方に変化が求められている。

本校は、少子超高齢社会において地域住民の健康生活に貢献できる看護師養成をめざしている。生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、人の心を理解し、受け入れ、共に生きようとする看護を実現するために、専門的知識・技術を備え、科学的根拠に基づく看護実践ができる人材の育成を教育目標としている。また、看護基礎教育の大学化が進む中、本学は、職業教育としての位置づけである専門学校教育の特性を生かし、新たに求められる実践能力に対応したカリキュラムを構築し、地域で活躍できる看護師の養成を目的としている。

1. 現代の看護を巡る環境

- 1) 現代は少子超高齢社会に突入し、平均寿命が延伸する中で、高齢者の健康障害、寝たきり、認知症など生活支援を要する在宅療養者の増加が見込まれる。一方、高齢者の独居世帯や夫婦のみの世帯の増加、3世代世帯の減少から家族の介護力の低下が予測される。入院期間の短縮化、在宅医療への移行推進において、高齢者のQOL向上を目指して、セルフケア推進による健康寿命延伸、在宅医療の推進による在宅看護の充実、終末期看護等さまざまな健康問題に対応する看護師の能力が問われている。本校は、大阪府南部高石市に位置しており、平成26年度の本市の高齢化率は25.4%で毎年0.5%程度の増加率を示している。今後も高齢化は促進される状況にあり、健康生活支援と看護が求められている。
- 2) わが国の医療対策として、医療計画は多様化、高度化する国民の医療需要に対応して、地域の体系的な医療提供体制の整備を推進しており、5疾患〔①がん、②脳卒中、③急性心筋梗塞、④糖尿病、⑤精神疾患〕、5事業〔①救急医療、②災害時における医療、③へき地の医療、④周産期医療、⑤小児医療（小児救急医療を含む）〕及び在宅医療に係る医療連携体制及び住民への情報提供推進策が制定された。これらの内容に関する看護の知識・技術の修得が求められる。平成28年度の診療報酬改定では、2025年に向けて医療・介護が一体的に整備されていく中で、地域包括システムの構築と医療提供体制の改定を推進する内容となった。今回の改定は、医療機関の機能分化・強化と在宅医療の充実を図るものであり、特に在宅医療に関連する看護の知識・技術の修得が求められる。
- 3) 近年の国際交流化に国内外の感染症や災害、環境問題等が予測され、感染防御や国際看護、災害看護の知識・技術が求められる。
- 4) 人々の人権意識の向上において、生命の尊重、個人の尊厳を基盤とする倫理的対応、科学的根拠に基づく安全な看護の実践のために、人間に対する深い洞察と理解に基づくケアリングの実践、専門的知識・技術を備えた専門職看護師としての人材が求められる。人間の生活、よりよく生きるための生活の質について理解し、人々の健康生活支援に必要な社会保障のしくみや多職種による協働・連携の知識・技術が求められる。

2. 現代の看護に求められる能力

- 1) 超高齢社会を迎えて、自律的、自立的存在としての高齢者の総合機能の維持・促進を図り健康寿命の延伸など健康生活支援の取り組み、骨・関節疾患、生活習慣病などの慢性疾患等に対する在宅療養者と家族の看護、寝たきりや認知症などの発症予防や対象者および家族に対する教育的支援、終末期看護の患者、家族に対する適切なケアの実施
- 2) 現代の国民の健康問題として対応が求められている、がん看護、精神看護、慢性疾患看護、認知症看護、救急医療、小児医療、周産期医療に対する看護、母性看護（思春期から更年期）、地域看護、リハビリテーションに関する看護等の実施
- 3) 個人の尊厳の尊重、人権意識の向上等に対する人間の総合的な理解、倫理的対応、看護師の人間性の涵養
- 4) 生命の安全、安楽（安寧）の確保のために的確な看護技術の適用や安全管理能力、ケアリング

- 5) 対象者との信頼関係形成に求められる専門的コミュニケーション能力、カウンセリング的対応
- 6) 人々の生活の質の向上に向けて人間の生活の理解と科学的思考に基づく健康生活支援
- 7) 成長発達段階に応じた心身の健康状態に対する看護
- 8) 災害、感染症、環境問題など国内外の特殊な状況への看護、グローバル思考、チャレンジ精神、自律性、創造性、英会話力
- 9) チーム医療により各職種の機能と役割を統合して、対象者に最善のケアを行うための連携、調整、協働、リーダーシップ、マネジメント能力
- 10) 看護の責務を自覚し、人々の健康生活支援のために保健医療と看護、福祉の問題に関心を持ち、能動的に探究する姿勢の涵養

3. 厚生労働省より「看護師教育の基本的考え方」（看護師等養成所の運営に関する指導要綱について）として現代の看護基礎教育の基本方針として下記の内容が挙げられている。

- 1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う。
- 2) 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
- 3) 科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う。
- 4) 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
- 6) 専門職業人として、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。

今後の社会情勢の変動を見据えて、これからの看護実践能力に求められる基礎的内容を抽出し、看護基礎教育におけるカリキュラムを編成する。

学校教育理念

「人間（ひと）を大切に」の精神を基盤として、教えるものと学ぶものが相互作用を生み出し自己実現する教育環境の中で、すべての教育活動を実践し、学生一人ひとりが豊かな人間性を醸成しつつ高い専門性と的確な対応能力を培い、保健・医療・福祉の各分野の充実に貢献し得る有能な人材として成長していくことを目的としている。

【看護学科】

教育理念

人には、誰でもその人でなければならない優れた個性がある。本校は、「人間（ひと）を大切に」の精神の基、その一人ひとりがもつ個性を育みながら、グローバルで柔軟な思考と深い専門性をもって、人々の健康生活を支援できる看護師の育成をめざしている。看護は、人の心を理解し、受け入れ、共に生きていこうとする「人に寄り添う姿勢」が大切である。さらに、人間に対する深い洞察と理解、科学性に基づく確かな技術をもって、その人の尊厳、生命の安全を守る責務が求められる。看護の知識と技術を修得し、ヒューマンケアの基本的な能力をもって地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる専門職業人としての看護師を育成する。

教育目的

本校は、個性の伸展をめざしつつ、看護専門職業人として、社会情勢の変動を鑑み、主体性と広い視野をもって、地域住民の健康と福祉に貢献できる看護の実践者を育成する。

教育目標

1. 人間の尊厳と倫理に基づき、対象との信頼関係をもとに看護を実践できる能力を養う。
2. 人間を全人的に理解し、健康状態に応じ、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。

3. あらゆる看護の場において、地域の人々の健康生活を支援できる基礎的能力を養う。
4. 保健・医療・福祉システムにおけるチーム医療の概念に基づき、他職種と連携、調整、協働して看護の役割を果たす基礎的能力を養う。
5. 社会の動向に関心をもってグローバルに思考し、看護の役割と機能の自覚のもとに、自律的、創造的に活動できる姿勢を身につける。
6. 看護師としての責務を自覚し、専門職業人として研鑽を積む態度を身につける。

卒業時の到達目標

1. 人間に対する深い洞察とヒューマンケアの基本的な能力をもち、対象者との信頼関係をもとに看護を実践することができる。
2. 対象者の健康状態に応じ、科学的根拠のもとに看護を計画的に実践することができる。
3. 健康状態とその変化に対処する方法が述べられ、QOL 向上に向けた支援ができる。
4. 保健・医療・福祉チームにおける連携、調整の必要性が述べられ、他職種との協働ができる。
5. 社会情勢の変動による医療、看護の変化に関心をもち、看護師として自律的、創造的に活動する姿勢がみられる。
6. 看護師の責務を自覚し専門職業人として研鑽を積み、自己成長に努める姿勢がみられる。

II. 各分野の考え方

1. 基礎分野

看護は人々の健康生活支援を目的としており、質の高い看護とは、対象者の生活現象を健康面から分析し、問題を判断し対処する科学的根拠に基づく看護実践をいう。看護学はこれらの科学的思考や論理的思考及び看護実践における看護の本質の追究を普遍的要素として構造化されており、自然科学、人文科学、社会科学等の多領域の学問を包含している。各要素の本質について基礎分野で看護学の基盤として学び、専門基礎分野、専門分野、統合分野の思考の礎とするとともに、学修の進行に応じて基礎分野の理解の深化を図り、看護師としての総合的な人格の陶冶をねらいとしている。

これらの学問の基盤に基づく専門看護師には、学校教育法における高等教育の原点としての主体的、自発的学習の重要性を基本とする自律性を促すとともに、看護師という職業的特性から対象者の生命の安全と倫理を貫く精神、発展する医療や看護について常に情報を把握し、継続学習による能力の維持・開発に努める姿勢、対象者や他の医療関係者との関係形成により、他者と連携、協働する姿勢、社会における人々の健康生活に参画する姿勢などの人間的成長や専門職業人としての責務を自覚する態度形成が求められる。

看護師養成所（3年課程）に入学する学生の多くは青年期にあり、アイデンティティ確立途上にある。入学後は、一人の人間として自己に、看護師という職業的特性を結像して、自己実現を模索している学生の状況を理解しながら、看護師を志向する個人としての成長を見守る必要がある。

また近年の若者は、IT 化社会やゆとり教育の影響を受けて、学力低下、感覚的、刹那的生活スタイル、自己中心的で他者との交流関係の狭小化の傾向等がみられ、看護学で必要とする思考力、説明力、自己理解や他者理解に困難を感じることも予測される。しかし、基礎分野の学修の深さが、その後の看護師としての人間的成長や看護実践能力の質の高さに影響すると思われるので、教育内容や教授活動の充実に努力する必要がある。

基礎分野として13単位（345時間）を設定し、1年次には情報化社会の中で看護に活用できる基礎を学び、情報を客観的に捉え、論理的に考える思考過程を習慣づける能力を養うために「倫理学」「社会学」「家族関係論」「臨床英会話」以外の9単位、2年次には人間・人間の生活について多面的に理解するために「倫理学」「社会学」「家族関係論」「臨床英会話」4単位を設定する。

1) 科学的思考の基盤

看護学の普遍的要素である科学的思考や論理的思考の基盤となる科目として4科目を設定する。これらの科目では、各学問の概念について理解し、様々な現象を理論的根拠のもとに追究することやそのための文献の読解力、また、追究の過程を論理的に説明することの意義と活用について学ぶ。そのベースに必要な不可欠な人間としてのコミュニケーション力を高めるために「読む力・書く力」「話す力・聴く力」の強化を図り、看護学の思考の基盤形成や主体的学習態度の涵養をねらいとする。

(1) 情報科学

情報の意味や収集の方法、分析方法を学び、医療・看護における情報の活用や記録の方法、安全管理、倫理的配慮等について学ぶために1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(2) 論理的思考

現象を論理的根拠に基づいて判断し、その過程を論理にそって説明できる能力を養い、看護実践の問題解決的取組の基盤として専門分野に活用するために1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(3) 表現法 I

正しく、適切な日本語について考え、練習し、使いこなせるようにすることをめざす。この日本語表現力（読む力・書く力）の向上は、看護に必要な論理的思考能力や問題解決能力の基盤となる。1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(4) 研究の基礎

看護の専門家として実践していくには、研究能力が必要になってくる。ある特定の物事において、人間の知識を集めて考察し、実験、観察、調査などを通じて調べ、その事象を深く追求していく過程について理解し、看護学に活かすことができるために1単位（30時間）1年次後期に設定する。

2) 人間と生活・社会の理解

看護学の中心となる「人間」について本質的、多面的に理解することは、看護実践能力や看護師としての人間的成長に大きく関係する。また、看護は、対象者や関連職者との人間関係を基盤として発展するため、様々な状況にある対象者の理解と関係形成に必要な能力の獲得が求められる。様々な発達段階にある対象者と関係性をもつことは、現代の学生は苦手な傾向にあることを考慮して進める。また、看護は地域社会に存在する人々の健康生活の支援を目的としているため、社会的存在としての人間および人間の生活について本質的に理解し、専門基礎、専門分野の学修へつなげる。

(1) 倫理学

看護学の神髄である人間の尊厳について、倫理理論や生命倫理の基礎的知識を学ぶために1単位（30時間）を2年次後期に設定する。

(2) 心理学

人間の様々な心理、心と行動の関係、生涯発達心理等の基礎的知識を学び、看護における対象者の理解や専門基礎分野のカウンセリング理論につなげるために1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(3) 教育学

人間が人間らしく成長するための教育の意義、学習と成長、環境の影響等、人間と教育の本質及び学習指導方法の基礎的知識を学修し、専門分野の対象理解や学習支援につなげるために1単位（30時間）を1年次後期に設定する。

(4) 社会学

社会の中で物事を多角的、批判的に見る社会学的な見方を学び、社会的現象を判断する意義や基礎的理論を学び、広い視野をもって専門基礎分野、専門分野につなげるために1単位（30時間）を2年次前期に設定する。

(5) 家族関係論

現代社会の家族の動向、家族の発達段階と課題、家族の文化等について基礎的理論を学び、専門基礎分野、専門分野につなげるために1単位（15時間）を2年次前期に設定する。

(6) 表現法 II

自己を表現する方法の中で、体の動き、歌う等によって感情、場面を表現するコミュニケーションの手段を理解する。又、創造性を養い看護に活かすことができるために1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(7) 教育キャンプ理論

自然環境の中で非日常の生活体験を通し、“生きる”ことについて考える。又、学生間の交流の中で主体性・創造性・協調性を養い、協働できる力をつけることができるため1単位（15時間）を

1年次前期に設定する。

(8) 臨床英語

外国の医療・看護に関する文献をとおして、診療記録に用いられる英語、身体構造の名称、臨床でよく使われる英語を学び、グローバルに思考する姿勢及び看護の国際化に対応する能力やチャレンジ精神を養う礎

として1単位（15時間）を1年次後期に設定する。

(9) 臨床英会話

外国の医療・看護に関する文献をとおして、臨床場面における英会話の能力の向上を図る。海外の臨床看護の実際をイメージし、英語によるコミュニケーションに慣れ、会話の実践力を高めるために1単位（30時間）を2年次前期に設定する。

2. 専門基礎分野

専門基礎分野の学修内容は、科学的看護実践における判断力や対処方法の理論的根拠となる知識群として重要であり、基礎分野の教育内容と有機的に関連をもたせながら進める。

1年次には2年次設定の科目を除く「16科目」16単位を設定する。2年次には「リハビリテーション論」「カウンセリング理論」「公衆衛生学」「社会福祉論」「関係法規」各1単位で合計5単位を設定する。

1) 人体の構造と機能

人体の生命現象のメカニズムを理解するために、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって各構造の役割と機能を学び、看護における「生活体としての人間の理解」につなげる。

(1) 生化学

生命維持のため、細胞一つ一つの中で起きている多くの化学現象とその総合機能など生命現象の仕組みを理解するために1単位（15時間）を1年次前期に設定し、「人体の構造と機能」につなげる。

(2) 微生物学

微生物、特に病原微生物の特徴と感染メカニズムについて学び、感染症の診断、治療、予防に必要な基礎的知識を修得するために1単位（15時間）を1年次前期に設定する。「人体の構造と機能」における防御機構と関連づけながら進める。

(3) 人体の構造と機能

機能系統別に「人体の構造と機能Ⅰ～Ⅴ」各1単位とし、5単位（120時間）を設定した。「人体の構造と機能Ⅰ」では、呼吸、血液、循環、内臓機能の調整について、「人体の構造と機能Ⅱ」では、栄養の消化と吸収について、「人体の構造と機能Ⅲ」では、体液の調整と尿の生成・生殖器系について、「人体の構造と機能Ⅳ」では、骨格と皮膚機能について、「人体の構造と機能Ⅴ」では、脳・脊髄、感覚器系について学修する。これらの知識を土台として、後続する人体の病理的状態や治療を理解するために、学修時期は1年通年に設定する。

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

(1) 病理学

人体の病理的状態について主な病変の特徴を学び、各疾患の病態の理解につなげる。1単位

(30時間)を1年次後期に設定し、「人体の構造と機能」で学修した生理的状態と対比させながら、学習が促進されるよう「人体の構造と機能」が進行したところで設定する。

(2) 栄養学

人間が生命現象を維持するために、摂取した栄養素が生体の細胞レベルで利用できるまでの分解、合成過程である代謝のしくみ及び生命体を維持するための栄養学の基礎について学ぶために、1単位（15時間）を専門基礎分野「生化学」を先行させ、1年次後期に設定する。

(3) 薬理学

薬物が生体に及ぼす生化学的、生理学的薬理作用、特に人体の病理的状態に対する薬物の治療的応用について理解し、専門分野に活用するために1単位（30時間）を1年次後期に設定する。

(4) 臨床検査学

科学的根拠に基づいたアセスメントを実施するうえで不可欠な手段である臨床検査の意義や内容を学修し、専門分野に活用するために1単位（15時間）を1年次後期に設定する。

(5) 疾病治療論

機能系統別に各疾患の原因、病態、症状、治療について理解するために「疾病治療論Ⅰ～Ⅳ」を各1単位（30時間）で4単位（120時間）を設定した。各科目の内容は、「疾病治療論Ⅰ」は呼吸器系、血液・造血器系、運動器系、「疾病治療論Ⅱ」は循環器系、泌尿器系、「疾病治療論Ⅲ」は消化器系、内分泌・代謝系、

アレルギー・膠原病・感染症系、「疾病治療論Ⅳ」は脳・神経系、感覚器系を設定した。科目間の重複内容を避け、主な疾患について、1年次後期に設定する。

3) 健康支援と社会保障制度

地域社会で生活するあらゆる発達段階にある人々の健康生活維持・増進のための支援と、保健の動向や健康的で安全な生活を支えるための国の保健活動や社会保障制度、社会資源について基礎的知識を修得し、専門分野における対象者の生活支援に活用する。又、「福祉」と「医療」の相関性が高まりつつある中、福祉分野、医療や地域保健分野など幅広い分野での学修が必要とされている。

(1) 人間工学

医療・看護分野における機械・器具、空間との安全性、快適性、効率性を考慮した人間工学を学ぶために、1単位(15時間)を1年次前期に設定し、専門分野Ⅰ、基礎看護技術でのボディメカニクスを利用した身体の動かし方等につなげ、看護実践において幅広く活用する。

(2) リハビリテーション論

対象者の生活機能の回復の観点から重要であり、リハビリテーションの理念、障害の分類、医療システム等障害の理解と各機能系統別にリハビリテーションの方法について基礎的知識を学修し、専門分野に活用する。1単位(30時間)を2年次前期に設定し、既修の「疾病治療論」に関連させながら学修の促進を図る。

(3) カウンセリング理論

カウンセリング理論やカウンセリング技法について基礎的知識を修得し、看護実践において対象者が自己の健康問題に主体的に取り組み、行動変容につながる教育的支援に活用するために1単位(15時間)を2年次前期に設定する。

(4) 公衆衛生学

疾病を予防し、地域社会の人々の健康生活を維持・増進させていくための科学的手法を理解し、個人・家族・地域・国レベルでの健康支援のあり方を学ぶために、1単位(30時間)を2年次後期に設定する。「微生物学」や「疾病治療論」等の既習の知識を統合して理解の促進を図る。

(5) 社会福祉論

あらゆる発達段階における国民の最低生活を支える社会保障の概念と法制度、及び障害者や要介

護高齢者等社会的援護を要する人たちの自立に向けて支援する社会福祉施策又、地域における関係機関との連携・調整の必要性について学ぶ。学校が所在する高石市の福祉行政の実際を学び、地域包括ケアシステムにおいて、社会資源の活用等を含めた生活支援に活用するために、1単位(30時間)を2年次の後期に設定する。基礎分野科目「社会学」「家族関係論」等との科目間の統合を図りながら学修を進める。

(6) 関係法規

看護職者は人間の生命の安全や尊厳に直接関与する職務であり、法律下に看護業務は規定されている。正しく遂行するために、法律の概念や看護関係法令、保健衛生法や福祉法を深く理解して看護実践することが責務として求められており、1単位(30時間)を2年次前期に設定する。特に専門分野における臨地実習において対象者とのかかわりを通して知識と実践の統合を図る。

3. 専門分野Ⅰ

専門分野は、看護の実践能力を養うための科目を設定する。対象者の尊厳のもとに、健康生活支援を実践するために必要な基礎的知識、技術の修得を目的とする。構造的には、基礎分野、専門基礎分野の学修を基盤として、その上に専門分野Ⅰを土台として専門分野Ⅱが編成される。学習過程においては、基礎分野、専門基礎分野との有機的な統合・深化を図りながら理論的根拠に基づく看護実践能力の修得に努めたい。専門分野Ⅰは、看護学の基礎分野と並行させながら1年次前期の初めから2年次前期にかけて科目の特性に合わせて設定する。

専門分野Ⅰの基礎看護学は、講義実技演習10単位(285時間)と臨地実習3単位(135時間)で編成している。学生は看護学については初学者であることから、看護の本質や看護の機能、役割について興味・関心を促進する配慮が必要である。また、専門職看護師という職業の特性を理解し、将来の自己への期待感をもって主体的に学修する姿勢を育みたい。

1) 基礎看護学

(1) 看護学概論

看護の本質、看護の対象としての人間理解、生活の要素と健康のかかわり、看護の倫理について学ぶ。そして看護の対象である人間が、身体的・精神的・社会的な側面をもっていることについて理論をとおして学

び、看護とは何か、人間とは何かを学ぶ。1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(2) 看護研究 I

看護の研究の基礎を理解し、知識探求の方法を学ぶ分野である。看護職の生涯教育を念頭におき、最新の知識と技術を自ら探求し、既習の研究の基礎を応用し、看護研究の基礎について理解する。1単位（15時間）を2年次前期に設定する。

(3) 看護技術論

看護技術の特徴・範囲・必要な要素を理解するとともに、医療におけるコミュニケーション、感染予防について学び、看護技術の学修の基礎とする。1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(4) 日常生活援助技術 I

日常生活を整える援助として、環境整備、活動と休息について関連する知識、技術を修得する。看護における姿勢と体位、移動については、人間工学的に学び、この知識、技術を活用して安全、安楽について学修する。1単位（30時間）を1年次前期に設定する。

(5) 日常生活援助技術 II

対象の自立の促進を目的に、日常生活を整える技術として、清潔、衣生活、食事、排泄について、関連する知識と援助技術を修得する。1単位（30時間）を1年次前期から後期にかけて設定する。

(6) ヘルスアセスメント技術

対象者の生活機能について判断し、援助を計画的にすすめるための根拠となる情報を得るために、「人体の構造と機能」の基本的知識に基づいて、身体の機能状態の観察（診査）の技術、看護におけるヘルスアセスメントの基礎について学ぶ。1単位（30時間）を1年次後期に設定する。

(7) 診療補助技術

診察を受ける対象者の安全と苦痛の緩和を目的として、与薬、診察、検査、処置について関連する知識と援助技術を修得する。1単位（30時間）を1年次後期に設定する。

(8) 臨床看護総論

多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基礎的な知識・技術をどのように統合しながら実践するかについて理解する。治療・処置・検査・医療機器の使用などを織り込み、1単位（30時間）を1年次後期に設定する。

(9) 看護過程展開技術 I

対象者の健康問題を科学的根拠に基づいて判断し、解決するために看護における問題解決法について学ぶ。これらは、あらゆる看護実践の場面で活用するための基礎的技術へとつながっていく。1単位（30時間）を1年次後期に設定する。

(10) 看護過程展開技術 II

看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標に基づき、看護を計画的に実践する能力における「アセスメント」「計画」「実施」「評価」を事例をとおして学び、専門分野につなげ、臨地実習では看護を計画的に実施する能力として活用していける内容である。1年次の後期、看護過程展開論 I が終了した時点で1単位（30時間）を設定する。

2) 臨地実習

基礎看護学実習は、看護実践の基礎的理解として医療施設における患者の生活状況および看護師の活動について概要を知り、さらに看護過程展開の基礎を学び、専門分野および統合分野の土台として3単位（135時間）を設定する。

(1) 基礎看護学実習 I

看護の初学者として医療機関の概要、患者の生活状況及び看護師の活動を見学し、また看護活動への参加体験や患者とのコミュニケーション、医療従事者とのかかわりをとおして看護専門職として基本的な役割や態度、職業に対する姿勢について学修する。また、校内で学修した日常生活援助技術を患者に適用するために、受け持ち患者との関係性を維持しながら技術を実施し評価する過程について学修する。1単位（45時間）を1年次後期に設定する。

(2) 基礎看護学実習 II

受け持ち患者に対して看護過程展開技術を適用し、看護上の問題解決方法と科学的看護実践の意義について学ぶ。2単位（90時間）を2年次前期に設定する。

4. 専門分野 II

専門分野Ⅱは、専門分野Ⅰの学修をふまえた教育内容として、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の5領域について講義、演習等22単位（600時間）を設定し、臨地実習として16単位（720時間）を設定した。

各看護学は、「概論」と「方法論」で構成し、「概論」では、各看護学の対象者の特性および健康ニーズと看護の特徴について理解し、「方法論」では各看護学の対象者の健康ニーズに応じた援助の方法に

ついて学修する。

「臨地実習」は、各看護学において受け持ち患者をとおして既修の知識、技術を活用して看護過程を展開し、看護実践方法について学修する。

1) 成人看護学

ライフサイクルにおける成人期は人生の中で最も長く、各人にとって重要な時期である。近年の医療情勢下では、生活習慣病やがん対策、心の健康、救急医療等に対する医療のあり方や予防活動が重視されている。これらの健康ニーズに対して、成人自らが主体的に取り組めるために、医療者による教育的支援が求められる。ライフサイクルにおける成人期の特徴や発達課題を理解し、さまざまな健康段階にある対象と家族に対する看護の必要性と方法について学ぶ。

(1) 成人看護学概論

ライフサイクルにおいて重要な時期にある対象の特性を理解し、健康段階に応じた看護の役割と方法について学修する。成人看護学を深く理解し実践するために関連理論を学修し、適用の仕方を学ぶ。1単位(30時間)を1年次後期に設定する。

(2) 成人看護学方法論Ⅰ

「急性期にある看護（クリティカルケア含む）」について、急性期にある患者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、患者の生命維持、悪化防止、苦痛の緩和、合併症予防、日常生活援助、家族支援等の看護方法について学ぶ。さらに、代表的な疾患や機能障害を通して急性期患者に対する看護について具体的に学ぶ。また、クリティカルケアを必要とする生命の危機状態にある患者に対して、生命を維持するためのモニタリングやアセスメント技術、重要臓器の維持等救命治療に伴う看護の基礎的知識・技術と対象者と家族の生活の質を維持するための援助の必要性について学ぶ。2単位（60時間）を2年次前期に設定する。

(3) 成人看護学方法論Ⅱ

「慢性期患者の看護」について、疾病がライフサイクルに及ぼす影響について身体的・精神的・社会的に理解し、患者のQOL、セルフケアの支援、行動変容を促す支援等患者とともに歩む援助のあり方について学ぶ。また、代表的な慢性疾患への看護援助について具体的に学ぶ。1単位(30時間)を2年次前期に設定する。

(4) 成人看護学方法論Ⅲ

成人期にある人の「健康増進と看護」について、健康の概念に基づき、成人期の保健・医療・福祉における動向と課題を理解し、ヘルスプロモーションへの取り組み、対象者と家族の健康に関する教育的支援について学修する。1単位（30時間）を2年次前期に設定する。

(5) 成人看護学方法論Ⅳ

「終末期患者の看護」について、人生の終末期にある患者（その人）の全人的理解と家族の悲嘆を通して、心身の安楽、QOLの向上、希望を支えるケア、グリーフケア等看護の基礎的理論を学び、実際に起こりやすい患者や家族の状況に応じた援助の方法について具体的に学ぶ。1単位（30時間）を2年次後期に設定する。

2) 老年看護学

老年期はライフサイクルの最終段階にあり、エリクソンによれば人生の統合の時期にある。我が国の超高齢社会の現状は、後期高齢者人口の増加や独居高齢者の増加、認知症や要介護者の増加、人々や家族の価値観や家族形態の変化による介護力の低下など問題が深刻化する現状にある。国は社会保障対策として、高齢者が地域でその人らしく生活し、人生を終えることができることをめざしている。

看護においては高齢者の加齢現象に対して保護、支援的にかかわることのみを課題とするのではなく、高齢者の自立心を尊重して可能な限り健康寿命を延伸し、QOLの向上をめざしたかかわりを基本姿勢とした援助の方法を学ぶ。

(1) 老年看護学概論

高齢者の身体的・精神的・社会的特徴と健康ニーズ、高齢者を取り巻く社会現象と保健・福祉対策について理解し、自律的、自立的存在としての高齢者のQOLに着目した看護の基本姿勢及び福祉政策を活用しながら生活を維持する方法について学ぶ。1単位(30時間)を1年次後期に設定する。

(2) 老年看護学方法論Ⅰ

「高齢者の総合機能と看護」について、高齢者の看護過程の特徴を理解し、健康ニーズを把握するための総合機能アセスメントの方法、健康段階に応じた看護の特徴、高齢者の生活の場に応じた看護の特徴について学ぶ。さらに、加齢に伴う諸機能の変化、個別性を理解し、より健康的な生活支援の方法について学修する。また、「健康障害と看護」について、老年期の代表的な疾患に対して、加齢変化による病態の特徴を理解し、地域での生活維持を考慮に入れ、また家族を含めた看護の方法について具体的に学ぶ。更に、老年期看護に活用される看護理論について理解し、事例をとおして活用方法を具体的に学修する。2単位(45時間)を2年次前期に設定する。

(3) 老年看護学方法論Ⅱ

「症状・治療に対する看護」について、高齢者に特徴的な症状のメカニズムと看護及び治療の特徴と看護について理論的根拠と方法を学ぶ。さらに、高齢者の代表的な事故防止や救急医療の必要性について理解し、初期対応方法について学修する。1単位(30時間)を2年次後期に設定する。

3) 小児看護学

近年の少子社会において、子どもの生命を守り、健やかな成長・発達を保証することは、医療をはじめとする社会全体の責務である。小児看護においては、子どもの健全な成長・発達の促進と疾病の予防は中心的な課題であり、家族を含めた看護活動が求められる。また、近年は虐待やいじめなど子どもを巡る社会問題や小児の救急医療や感染症なども対応を迫られている。これら現代の小児をめぐる成長・発達上の課題に対応できる看護の知識と技術を修得する。

(1) 小児看護学概論

小児看護の変遷を通して、現代の小児を巡る身体的・精神的・社会的問題について理解し、小児看護の課題について学ぶ。さらに、小児の成長・発達について理解し、家族を含めた健全な発達の支援について学修する。1単位(30時間)を1年次後期に設定する。

(2) 小児看護学方法論Ⅰ

「小児の健康障害と看護」について、病児と家族の理解、小児と家族のアセスメント、健康段階と看護、代表的な症状、検査、処置に対する看護、障害のある小児と家族の看護について、看護過程展開に必要な基礎的知識、技術を修得する。1単位(30時間)を2年次前期に設定する。

(3) 小児看護学方法論Ⅱ

「小児の健康障害と看護」について、代表的な疾患の病態、症状、治療に基づく看護の方法について学び、事例をとおして具体的に学修する。2単位(45時間)を2年次後期に設定する。

4) 母性看護学

マタニティサイクルを含む女性のライフサイクル各期(思春期、成熟期、更年期)における健康の

概念を理解し、各期の特徴に応じた健康支援の方法、社会保障について学ぶ。また、マタニティサイクルにおける健全な子どもを産み育てるための支援、ハイリスク状態にある母子への看護について基礎的知識、技術を修得する。

(1) 母性看護学概論

母性の概念及び特徴、母子保健について総合的に学ぶ。種族維持の視点から母性看護の対象をとらえ、母性看護の機能と役割について学修する。さらに、母性の一生(思春期、成熟期、更年期)を通じて健康の維持・増進及び健康上の諸問題について理解し、母性が心身共に健康な生活ができるよう保健上の援助について学修する。1単位(30時間)を1年次の後期に設定する。

(2) 母性看護学方法論Ⅰ

女性特有の健康障害の特徴を理解し、疾病・治療・看護について学ぶ。1単位(15時間)を2年次前期に設定する。

(3) 母性看護学方法論Ⅱ

「妊娠・分娩の理解と看護」について、健全な子どもを産み育てることを目指して妊婦・産婦及び家族の状況と関連させて総合的に理解し、看護に必要な基礎的知識、技術を修得する。

1 単位 (30 時間) を 2 年次前期に設定する。

(4) 母性看護学方法論Ⅲ

「褥婦・新生児の看護」について、出産後の母体の順調な回復と新生児の健全な成長と母親の育児方法の修得を目指して、褥婦・新生児及び家族について総合的に理解し、看護の基礎的知識・技術を修得する。さらに新生児の生理的特徴と適応過程を理解し、母子関係を家族の状況と関連させ、看護に必要な基礎的知識、技術を修得する。1 単位 (30 時間) を 2 年次後期に設定する。

5) 精神看護学

近年、心の健康問題は覚せい剤、アルコール依存症、虐待、いじめ等、社会問題として一層深刻化し、精神保健の重要性が求められている。我が国の精神疾患による入院患者数は、国際的にも多く社会的入院が課題となっている。そのため、国の施策としても入院中の精神疾患患者が地域で生活するための取り組みに移行しつつある。精神看護学については、精神保健と社会的背景、精神障害のメカニズム、ライフサイクルや生活の場と精神保健について多面的に理解する。さらに、臨床の様々な状態における心の健康やリエゾン精神看護等について基礎的知識を修得し、精神障害者の倫理、社会保障、地域保健活動をふまえて援助の方法について学修する。

(1) 精神看護学概論

精神の構造と機能をとおして心の健康、不健康について理解し、精神保健の意義や現代の社会的課題について学修する。さらに精神障害者に対して倫理的判断、リスクマネジメントのもとに医療・看護が行われる重要性について理解し、看護の役割と機能について学修する。また、精神看護に用いる理論、モデルについて理解し、活用する方法を学ぶ。1 単位 (30 時間) を 1 年次後期に設定する。

(2) 精神看護学方法論Ⅰ

「精神障害者の看護」について、代表的な精神疾患、検査、治療法について理解し、さらに主な症状に対する看護について学ぶ。1 単位 (30 時間) を 2 年次前期に設定する。

(3) 精神看護学方法論Ⅱ

「地域精神保健活動と看護」について、精神障害者の地域における生活支援のために、地域精神保健活動の意義を理解し、さらに社会保障や法律等地域の支援システムについて学修し、精神障害者への活用について学修する。1 単位 (15 時間) を 2 年次後期に設定する。

(4) 精神看護学方法論Ⅲ

「精神障害者の理解と看護の基本」について、患者を疾患、健康段階、生活状態等多面的に理解し、患者の日常生活の自立促進に向けて、アセスメント・コミュニケーション技法等看護援助の基本について基礎的知識・技術を修得する。1 単位 (30 時間) を 2 年次後期に設定する。

6) 臨地実習

専門分野Ⅱの講義、演習・実技演習を通して学修した知識・技術を臨地実習において実際に対象者に適用し、評価、考察を繰り返すなかで、各専門領域別看護学の知識・技術の修得を深めるために、成人看護学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとして6 単位 (270 時間)、老年看護学実習Ⅰ、Ⅱとして4 単位 (180 時間)、小児看護学実習として2 単位 (90 時間)、母性看護学実習として2 単位 (90 時間)、精神看護学実習2 単位 (90 時間)、合計16 単位 (720 時間) を設定する。

(1) 成人看護学実習

① 成人看護学実習Ⅰ

成人看護学実習Ⅰは、成人期の健康障害を抱える対象の特徴を理解し、健康回復をめざした看護の実際を学ぶ。2 単位 (90 時間) を 2 年次後期に設定する。

② 成人看護学実習Ⅱ

成人看護学実習Ⅱは、生涯に渡り疾病の自己管理を必要とする疾病の慢性期にある患者と家族を対象とする。患者の日常生活上の課題に対するセルフマネジメント支援について、2 単位 (90 時間) を 3 年次通年にかけて設定する。

③ 成人看護学実習Ⅲ

成人看護学実習Ⅲは、生命危機状態または周手術期にある患者等生命徴候の変動状態にある患者と家族に対して、急性期から回復期へかけての看護について2 単位 (90 時間) を 3 年次通年にかけて設定する。

(2) 老年看護学実習

① 老年看護学実習Ⅰ

老年看護学実習Ⅰは、在宅や医療施設以外の生活の場におけるさまざまな健康状態にある高齢者の介護予防、自立支援等生活機能に応じた日常生活の援助について、老人保健施設、特別養護老人ホームをとおして2単位(90時間)を2年次後期に設定する。

② 老年看護学実習Ⅱ

老年看護学実習Ⅱは、医療施設に入院している高齢者と家族を総合的にとらえ、加齢変化と病態をふまえた悪化防止、合併症防止、残存機能活用による自立拡大への看護について2単位(90時間)を3年次通年にかけて設定する。

(3) 小児看護学実習

小児看護学実習2単位(90時間)を3年次通年にかけて設定する。

小児看護学実習は、保育施設における健康な乳幼児の成長・発達段階の特徴及び課題達成状況について理解し、保育士による保育の実際をとおして、乳幼児へのかかわり方を学修し、病児の看護に活用するために4日(30時間)を設定する。又、医療施設に入院している患児及び外来受診の患児をとおして、病気の子どもと家族を理解するための学修として30時間を設定する。入院患児については発達段階の特徴と病態をふまえて、病児と家族を総合的に把握し、回復促進、生活習慣獲得の維持促進、保健指導の必要性等病児と家族に必要な看護について学修する。外来受診患児については、患児と家族の心理状態に配慮し、検査、処置を受ける患児の苦痛の緩和、外来環境整備の重要性を学修する。

訪問看護ステーション(子ども支援センター)で、発達に障害のある幼児の療育について学び、又、特別支援学校の教育の場においての支援について理解し、在宅生活をする子どもと家族を理解する。学内実習1日を含み4日(30時間)を設定する。

(4) 母性看護学実習

母性看護学実習2単位(90時間)を3年次通年にかけて設定する。

母性看護学実習は、周産期にある母子の看護について、妊娠期は主として外来における妊婦健診、出産後の準備教育をとおして学修し、分娩・産褥期は産婦の分娩経過、褥婦の産褥経過、新生児の観察とケアについて病棟及び助産所で学修する。4日(30時間)を設定する。

更に、地域と密着した助産所での母子看護の役割と特徴を理解するために4日(30時間)を見学実習として設定する。

更に、子育て支援センターで実習を行い、地域全体で、子どもの育ち、親の育ちを支援するための活動の場に参加する。また、親子とのコミュニケーションを通して、子育て支援のあり方について学ぶ。2日(15時間)を設定する。

又、学内実習2日を設定する。母性看護学実習に必要な演習の時間として活用し、各施設での体験をグループ間で共有することで母性看護学に対する学びの統一化を図る時間とする。又、分娩時の看護が体験できないこともあり、紙上事例やDVD視聴、共有学修を取り入れ、目標達成に繋げる。

(5) 精神看護学実習

精神看護学実習は、精神に障害をもつ患者と関係性を築き、セルフケア促進への看護及び患者の社会復帰へ向けての取り組みについて学修するために、2単位(90時間)を3年次通年に設定する。

5. 統合分野

統合分野は看護の基礎的知識・技術の専門的基盤と科学的基盤、看護師としての人間性の発達に基づいて学修した既修内容を、あらゆる発達段階や看護の場における対象の健康段階に対する看護の必要性に応じて基礎分野、専門基礎分野の学修内容を相互に関係させながら統合して実践する基礎的能力を修得する。この学習は、卒業時到達目標の達成度を確認すると同時に、卒業後に看護師として勤務することを想定した学びの場としての意味も含めて、講義9単位(240時間)臨地実習4単位(180時間)を設定する。看護の場としては、病院内、災害時、外国における看護概念と方法を学修し、看護師の実践業務に必要な要素として、医療安全、組織と管理、チームワーク等看護活動の実際について学修する。

1) 在宅看護論

在宅看護論は、地域で生活しているあらゆる発達段階、健康段階にある対象者とその家族の健康生活支援であり、保健・医療・福祉との有機的な連携を基盤として実践される。

特に超高齢社会における高齢者のQOLに基づく在宅療養生活の支援について看護独自の機能及び保健・医

療・福祉関連職種との連携を重点的に学修するために、4単位（105時間）を設定する。

(1) 在宅看護概論

在宅看護の歴史的背景をとおして在宅看護の本質を理解し、現代の地域における在宅看護の対象者とその家族の特徴と尊厳及び看護の必要性と特徴、在宅看護を支える制度と多職種との連携について学修する。1単位（30時間）を1年次後期に設定する。

(2) 在宅看護方法論Ⅰ

あらゆる発達段階における対象者の在宅看護に必要な専門的看護技術として、コミュニケーション技術、アセスメント能力、日常生活援助技術および診療補助技術について学修する。また、在宅療養者の主な症状、状態、ターミナルケアについて、事例を通して看護の展開について学ぶ。2単位（45時間）を2年次前期に設定する。

(3) 在宅看護方法論Ⅱ

小児期、成人期、老年期における代表的な事例を通して、知識・技術を統合し、訪問看護活動の実際について学修する。1単位（30時間）を2年次後期に設定する。

2) 看護の統合と実践

あらゆる看護場面において対象者のニーズに応じた看護実践が組織において実践できるために、看護管理・医療安全の知識をふまえて、既習の知識及び災害看護、国際看護の基礎知識を統合し、必要な看護を展開する能力を養う。さらに専門職業人として看護を迫及する姿勢を学ぶ。5単位（135時間）を設定する。

(1) 看護管理・医療安全

「看護管理」については、看護の対象者の一人ひとりのニーズに応じた看護（サービス）を提供するためには、人的資源、物的資源、財的資源が必要であり、資源の有効利用のためにはチーム医療における看護の組織を理解し、看護師として業務への参画のしかたについて学修する。

「医療安全」については、看護師の責務として専門分野Ⅰで学修した安全の概念をふまえて、医療事故防止の考え方を基礎的知識として、診療補助技術及び療養上の世話における医療事故の発生要因、事故防止の考え方、事故防止対策について具体的に学修し、安全な医療、看護提供のための看護実践能力を修得する。1単位（30時間）を2年次後期に学修する。

(2) 災害看護学

災害看護学については、近年は地球温暖化に伴う気候変動等の影響もあり、災害の頻度や規模が拡大し、特に震災や風雨の被害が増大している。被災者に対しては、急性期のみならず、回復期、慢性期においても各期に特異的な問題に対して援助が求められる。また、災害時の救護活動について法的根拠をもって救護チームとして活動する方法や国際救援活動など、看護職に求められる災害看護の基礎的知識を修得する。1単位（15時間）を2年次後期に設定する。

(3) 国際看護学

国際看護学については、現代は、国際交流の発展に伴って、グローバル化のなかで医療・看護を考える時代を迎えている。在日外国人を含めて、対象者の多様な文化的背景を理解して対応する国際看護学の考え方、異文化の医療の現場を研修で学修する。又、1単位（30時間）を3年次後期に設定する。

(4) 看護の統合と実践

対象者の状態に対して既習の知識を活用して、発達段階、健康段階、心理状況等から看護上の問題をアセスメントし、その場で必要な看護を判断、実践できる基礎的能力を養うために校内での臨床場面を設定するなど実際に近い状況で学修する。1単位（30時間）を3年次通年に設定する。又、OSCEの中で、介護福祉士を目指す学生と共に学修することで、高齢者の思いや特徴的行動についての理解を深める。

(5) 看護研究Ⅱ

看護師として自己の看護実践能力の向上のために、日頃の看護実践をリフレクションやケーススタディをとおして理論的根拠をもって考察し、能力向上につなげるための方法を学修する。1単位（30時間）を3年次通年に設定する。更に、介護社会福祉科学生のケーススタディの発表を聴講することで、高齢者施設における利用者の理解を深め、介護福祉士との協働の必要性について再認識する。

3) 臨地実習

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野で学修したあらゆる知識・技術を統合して、看護の場や対象者、家族の状況に合わせて適用し、看護実践能力を養うために、在宅看護論実習として2単位（90時間）、統合実習として2単位（90時間）、合計4単位（180時間）を設定する。

(1) 在宅看護論実習

訪問看護ステーションや施設をとおして在宅療養者と家族の健康状態と生活状況について理解し、療養者の健康の維持・増進、悪化、合併症防止と援助、家族の支援について学修すると共に、在宅での療養を行いながら QOL 向上に向けた支援の実際を理解するために、2 単位 (90 時間) を 3 年次通年に設定する。

(2) 統合実習

病院の看護管理下のもとに、あらゆる知識と技術を統合して複数患者の看護に適用し、看護チームの一員としての連携、夜間の患者の状態と看護業務の実際等をとおして看護実践能力の向上をめざす。また、専門職業人としての看護の役割と責任を自覚し、自己の課題を明確にすることで、卒後、看護師としての自己の動機づけとする。2 単位 (90 時間) を 3 年次後期に設定する。

授業科目名	情報科学	講師名	永野 千恵美
実施年次・時期	1 年次 前期	時間数 (単位)	1 単位 30 時間
概要 社会生活における情報の意義を理解し、保健・医療・福祉における情報の活かし方、および対象者を中心とする個人情報の保護や情報倫理について学ぶ。さらに、エビデンスに基づく情報を作り出すために、研究によって新しい情報を生み出し発表する方法を学ぶ。そのなかで、誰もが等しく情報を共有できる情報化社会の重要性や看護活動において情報を効果的に活用するための方法についても学ぶ。			
目標 1. 情報とは何かを学ぶ 2. 看護に必要な情報処理方法を学ぶ 3. 看護と統計について学ぶ 4. 情報と倫理について学ぶ 5. PC の基礎と利用方法について学ぶ 6. プレゼンテーション資料の作成の方法について学ぶ			
内容 1. ネットワークの操作、設定の変更 2. ネットワークの操作 3. ワード 4. ビジネス文書 5. タイピング 6. ワード 7. タイピング Excel	8. タイピング Excel 9. タイピング 棒グラフ 10. 円グラフ、散布図 11. IF 関数 12. P>P 13. タイピングテスト 14. PowerPoint 15. 試験		
教科書 資料			
授業の形態・方法	講義、演習	評価方法	実技試験 (80 点)、課題レポート (20 点)

授業科目名	論理的思考	講師名	植田 純子
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 看護は対象の健康生活上の問題について専門的知識・技術を用いて問題解決的に実践し、これを関係者と共有する。そのために看護師には、看護実践の経過や対象者に起こっている現象を理解し、他者に可視化できるように説明する能力が求められる。さらに、それを記述できる論理的思考能力が必要となる。			
目標 1. 論理および論理的、非論理的概念について理解する 2. 論理的思考の概念について理解する 3. 論理的思考の意義について説明、可視化の観点から理解する 4. 演繹、帰納、仮説形成の思考方法について理解する 5. 論理的思考に基づく説明ができる 6. 論理的思考訓練により能力を養う			
内容 1. introduction、各自一言発表 2. 日本人の言語表現 3・4. 3分間スピーチ(双方向性重視) 5. 論評文に不適切な表現		6・7・8・9. 論評・論文作成、提出 10. ロールプレイング 11・12. 問題解決のプロセスを各グループで表現 13・14・15. 論説文作成、提出	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 課題レポート	

授業科目名	表現法 I	講師名	藤岡 裕美
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 [スタディスキル編] 正しく、適切な日本語について考え、練習し、使いこなせるようにすることをめざす。この日本語表現力(読む力・書く力)の向上は、論理的思考能力・問題解決能力を磨くことにつながる。また、看護師になったときに必要とされる正確に情報や意見を交換する力の基盤となる。			
目標 1. 文章構成能力を養う 2. 適切な用語の選択と正確な語法を用いる能力を養う 3. 合理的で適切な説明の手段を選択する能力を養う			
内容 1. 会話と文章 (1) 会話と文章の区別の理解 (2) 考えを文字化する訓練 2. 文章の分類 (1) 目的によって異なる文章区分の理解 (2) 読み手が期待する文章を書く訓練 3. 事実と意見の区別 (1) 「事実」と「意見」の書き分け (2) 「判断」と「客観性」についての理解 4. 適切な語の選び方 (1) 曖昧さを避けた表現の習得 (2) 感情表現を避ける技術の習得 5. 読み手が理解しやすい文 (1) 正しく伝わる文の基本法則 (2) 読み手を引きつけながらも展開する文章作法の習慣 6. 読み手の期待にそって展開する文章 (1) 文と文を上手につなげる技術の習得 (2) 読み手を引きつけながら展開する文章作法の習得 7. 文体の統一 (1) 理論的な文書に求められる文体の習得 (2) 文末表現以外でなければならない文体の統一		8. 句読点の打ち方 (1) 句読点の役割の理解 (2) 読み誤りがないように句読点を利用する技術の習得 9. レポートの書き方 (1) 基本的な「型」の習得① 10. レポートの書き方 (1) 基本的な「型」の習得② 11. レポートの書き方 (2) 基本的な「型」を使った実践訓練① 12. レポートの書き方 (2) 基本的な「型」を使った実践訓練② 13. 履歴書・エントリーシートの書き方 自分をアピールする表現の習得 14. Eメール・手紙の書き方 (1) 確実に伝える文章技術の習得 (2) 的確な通信方法を選択する能力の養成 15. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験(80%)、課題レポート(20%)	

授業科目名	研究の基礎	講師名	
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 ある課題において、事象や人間の知識を集めて考察し、観察、調査などを通じて、その事象を深く追及していく過程を学ぶ。			
目標 1. 研究の意義を考える。 2. 研究の基礎となる思考方法や多面性を理解する。 3. 研究の方法や計画を学ぶ。 4. データのとり方・分析方法を理解する。			
内容 1. 研究とは 2. 私の見ている世界 3. 私の見ている世界(解題と演習) 4. 思考の多面性とは 5. 思考の多面性とは(解題と演習) 6. 演習 7. 課題の設定		8. 課題についての説明 9. デザインと計画 10. データ(情報)の取得と整理 11. データ(情報)の取得と整理 12. データの分析 13. 発表 14. 発表 15. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義・演習		評価方法 筆記試験(50点)、レポート(50点)	

授業科目名	倫理学	講師名	中井 昭宏、伊藤 照美
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人間を対象とし、生と死に向き合う職業である看護職は、対象者の尊厳の尊重のもとに看護を実践する。その能力を養うための基礎的知識として、倫理学や倫理理論、倫理的ジレンマと対処について学ぶ。さらに生命倫理についての考え方を理解し、医療倫理が看護実践のなかに日常的に密着していることを広く事例をとおして学ぶ。			
目標 1. 倫理・倫理学の定義、倫理について基本的な考え方や主な倫理理論について学ぶ 2. 倫理的ジレンマと生命倫理について理解する 3. 生命倫理の基本的な概念やインフォームドコンセント、守秘義務の重要性について理解する 4. 生命倫理の現代の主な課題について学ぶ 5. 看護倫理について学び、人間の生命の尊厳について考えることができる力を養う			
内容 [生命倫理] 1. 倫理学の基本的な考え方 2. 生命倫理 3. 生殖の生命倫理 4. 死の生命倫理 5. 先端医療と制度をめぐる生命倫理 6. 事例分析		[看護倫理] 7. 看護倫理とはなにか 8. 専門職の倫理 9. 倫理的問題へのアプローチ 10. 看護研究の倫理 11. 事例分析① 12. 事例分析② 13. 事例分析③ 14. 事例分析④ 15. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験、課題レポート(100点)	

授業科目名	心理学	講師名	前田 雄一
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
<p>概要 看護実践は、対象者との信頼関係を基盤とする。望ましい信頼関係は、対象者との心理面の理解と看護師の自己理解、自己統制によって成立する。そのために、人間の心理や行動の基盤にある原理について学ぶ必要がある。また看護職は、保健・医療・福祉の場面において、患者や家族、そして医療コーディネーターとして活躍する機会が増えている。そのため幅広い観点から、柔軟に人間の心理や行動の現象をとらえる力が求められる。</p>			
<p>目標 1. 感覚・知覚・注意・記憶・思考・感情等について、私たちの心の動きにはどのような基本的特徴があるのか理解する 2. 心の複雑さと多様性について理解する 3. 医療場面での人間理解の展開について学ぶ</p>			
<p>内容 1. 心理学とは 2. 感覚・知覚の心理 3. 記憶のメカニズム 4. 思考の分類 5. 言語の役割 6. 学習 7. 感情</p>		<p>8. 性格理論 9. 知覚、態度、バランス理論 10. 発達段階、発達課題 11. 知的発達 12. 臨床心理学 13. 心身症、適応障害等 14. 精神分析、行動療法 15. 筆記試験</p>	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	教育学	講師名	油谷 佳典
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
<p>概要 人間が人間らしく成長するための教育の意義、学習と成長、人間の形成への環境の影響など人間と教育の本質について理解する。また、看護実践において対象者の学習支援の基礎的知識として、指導の意義、方法について学習する。</p>			
<p>目標 1. 人間の成長と教育の意義について理解する 2. 法律の規定に基づき、個人、社会にとっての教育の目的を理解する 3. 生涯学習社会の教育・学習システムについて理解する 4. 学習指導、生活指導の意義と方法について理解する 5. 教育評価の意義と目的、方法について理解する 6. 障害の種類に応じた教育の実践について理解する</p>			
<p>内容 1. 教育学の目標、目的 2. 自立支援と教育学 3. ハンセン病回復者の尊厳 4. 子どもの尊厳と教育 5. 子どもの貧困と教育 6. 学校と家庭と教育 7. 教授 人を教えるということ</p>		<p>8. 教授、訓育 9. 訓育、他者とのかかわりを導く 10. 養護 教育の受け手を見守る 11. 発達 教育を受けて成長する 12. キャリア教育、ジェンダーとセクシュアリティ 13. インクルーシヴ教育 14. 教育の営みを考える 15. 筆記試験</p>	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	社会学	講師名	山口 暁
実施年次・時期	2年次 前期	時間数 (単位)	1単位 30時間
概要 社会的な存在としての人間を総合的に理解するために、社会の概念、個と社会の関係について学ぶ。また、物事を社会の中で多角的、批判的に見る社会学的なとらえ方を学び、医療・看護・福祉に関する社会的現象を判断し、看護実践に活用できる能力を養う。			
目標 1. 社会学の基礎概念について理解する 2. 社会的現象を理解するための多様な観点からのアプローチの意義について理解する			
内容			
1. 社会とことば 2. 地位と役割 3. 社会的役割 4. 社会的役割 5. 産業文化、集団と機能 6. 近代組織の展開、非人格的システム 7. 地域社会と現代社会		8. 都市化と過疎化 9. ネットワークとソーシャルサポート 10. 女性の地位と近代社会 11. 都市地域 地域社会 12. 社会問題 13. 逸脱 ラベリング理論 14. ラベリング理論 15. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	家族関係論	講師名	山口 暁
実施年次・時期	2年次 前期	時間数 (単位)	1単位 15時間
概要 様々な健康レベルの家族のヘルスニーズや、家族の健康問題によって発生する家族問題を理解し、家族の保健機能や介護機能を高めるための看護について学ぶ。			
目標 1. 様々な健康レベルの家族の健康問題によって発生する家族問題と援助の必要性を理解する。 2. 家族を単位としたアセスメントの方法を理解する 3. 家族に対する看護について理解する			
内容			
1. 家族とは 2. 家制度 3. 家族機能 4. 親子の関係とパーソナリティ機能		5. ケアの外部化 家族生活の変化 6. 家族のラウフサイクル 7. 家族の個人化と意識の変化 8. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	表現法Ⅱ	講師名	森崎 良尚
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 自己表現を行う方法を理解しコミュニケーション力を身につけると共に、自己理解につなげる。			
目標 1. 歌うという行為により自己表現をする。 2. 表現の場では聞き手に伝える喜びを体験する。 3. 体の動き、歌うことによって感情、場面を表現するコミュニケーションの手技を理解する。 4. “クラスの歌”を通じて、協調性の向上につなげる。			
内容			
1. 話しかけ、笑顔トレーニング 2. 話しかけ、笑顔トレーニング 3. 発想の転換、ナイチンゲール賛歌 4. 発想の転換、ナイチンゲール賛歌 5. 立ち居振る舞い、ナイチンゲール賛歌 6. 立ち居振る舞い、ナイチンゲール賛歌 7. 大声トレーニング、ナイチンゲール賛歌		8. 大声トレーニング、クラスの歌 9. 戴帽式スピーチ、読唇術 10. 会話力トレーニング 11. 会話力トレーニング、クラスの歌 12. 会話力トレーニング、クラスの歌 13. ナイチンゲール讃歌・クラスの歌の練習 14. ナイチンゲール讃歌・クラスの歌の練習 15. ナイチンゲール讃歌・クラスの歌の歌唱指導	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 演習参加状況・レポート(100点)	

授業科目名	教育キャンプ理論	講師名	赤木 功
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 教育キャンプ理論を理解し体験の中から得られたことを、看護実践の場に活かすことができる。			
目標 1. 自然環境の中で非日常の生活体験を通じ、“生きる”ことについて考える。 2. 人間の成長と教育の意義がわかり、健康教育につなげるプロセスが理解できる。 3. 人間関係作り・組織運営を体験することで学べたことを、看護実践に活かすことができる。			
内容			
1. キャンプレクリエーション理論 2. レクリエーション実践 3. リサイクルクラフト		4. 災害時におけるロープワーク 5. 事業企画 6. 事業企画 7. 事業企画プレゼンテーション 8. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験(100点)	

授業科目名	臨床英語	講師名	里 恵美
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 国際化に対応できるよう、診療記録に用いられる英語、身体構造の名称、臨床でよく使われる英語を学ぶ。			
目標 1. 診療記録に用いられる英語や身体構造の名称を理解する 2. 臨床でよく使われる英語を学び、臨床英語の基本を理解する			
内容 1. レベルチェック、医療用語解説 2. 文法解説、Chap, 8 3. Chap, 8 測定、対話練習 4. Chap, 9 基礎検査		5. Chap, 9 基礎検査、対話練習、Chap, 1 6. Chap, 1 初診外来、対話練習 7. 復習 (①練習問題、②対話練習) 8. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	臨床英会話	講師名	里 恵美
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 国際化に対応できるよう、臨床場面における英会話の能力の向上を図る。			
目標 1. 臨床のベッドサイドで用いられる日常会話の基本を学び、看護実践場面のロールプレイングにより応用力を高める 2. 海外の臨床看護の実際をイメージし、英語によるコミュニケーションに慣れ、会話の実践力を高める			
内容 1. 1年次復習、Chap, 2 病歴 2. Chap, 2 病歴、リスニング練習 3. Chap, 3 病状 4. Chap, 4 病状詳細 5. Chap, 4 病状詳細、ロールプレイ準備 6. ロールプレイ (受付・記録) 7. Chap, 5 道案内		8. Chap, 5 道案内、リスニング練習 9. Chap, 6 救急患者 10. Chap, 6 救急患者、対話練習 11. Chap, 7 診察予約、リスニング 12. ER ドラマ鑑賞、海外研修資料 13. リスニング、会話練習 14. 試験対策 15. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	生化学	講師名	中井 昭宏
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 生化学とは、生体がどのような化合物でなりたっていて、それらの化合物がどのようにつくられ、こわされ、このことによって生体の恒常性が保っていることの基礎を示してくれる学問である。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく学び、看護における対象者の疾患の病態理解につなげる。			
目標 1. 生物内の物質の動きと変化(代謝)と、様々な生命現象の根底にある物質的過程を理解する 2. 生命維持のため、一つ一つの細胞のなかで起きている多くの化学現象とその総合機能など、生命現象の仕組みを理解する			
内容 1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 生化学を構成する物質 (1) 糖質・脂質 3. 生化学を構成する物質 (2) タンパク質・核酸 4. 生化学を構成する物質 (3) 水と無機質・血液と尿・ホルモンと生理活性物質 5. 生体内の物質代謝 (1) 代謝の概要 6. 生体内の物質代謝 (2) 酵素・ビタミンと補酵素・糖代謝・脂質代謝・糖質代謝・たんぱく質代謝・ポリフェリン代謝・代謝異常 7. 遺伝情報とその発現、先天性代謝異常症 8. 筆記試験			
教科書 系統看護学講座 人体の構造と機能② 生化学 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	微生物学	講師名	加瀬 哲男
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 微生物及び病原微生物の特性と感染メカニズムを理解し、感染症の診断、治療、予防のための基礎知識を学び、看護における感染防止につなげる。			
目標 1. 微生物学の意義について学ぶ 2. 主な病原微生物の性質について理解する 3. 生体の感染防御機構、感染症の検査、診断、治療について理解する 4. 感染症の現状と対策を学び、感染予防の必要性を理解する 5. 主な病原微生物の特徴と感染症について理解する			
内容 1. 微生物の種類 2. 感染症の原因と生体防御 3. 感染症の治療と診断 4. 感染症の対策 5. 細菌感染症 6. 細菌感染症、ウイルス感染症 7. 細菌感染症、ウイルス感染症、まとめ 8. 筆記試験			
教科書 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進④ 微生物学 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅰ	講師名	泉 康雄、市田和裕
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人体の生命現象のメカニズムを理解するために、解剖学的に人体の形態と構造、生理学的に役割と機能を学び、看護における生活体としての人間の理解に活用する。			
目標 1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして、人体の構造と機能を理解する			
内容 [呼吸と血液、心臓のはたらき] 1. 呼吸器の構造 2. 呼吸機能と疾病 3. 血液成分の役割 赤血球 4. 血液成分の役割 白血球、血小板 5. 心臓の構造 6. 心電図、不整脈 7. 心臓ポンプ、動静脈の役割 8. 門脈の役割、血圧調節因子		[内臓機能の調節] 9. 自律神経について 10. ホルモン総論、糖尿病 11. 視床下部、下垂体、甲状腺 12. 副腎、フィードバック 13. 糖尿病、カルシウム調節 14. まとめ 15. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点 (1～8は60点、9～14は40点)	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅱ	講師名	矢田 克嗣
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 人体の生命現象のメカニズムを理解するために、解剖学的に人体の形態と構造、生理学的に役割と機能を学び、看護における生活体としての人間の理解に活用する。			
目標 1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして、人体の構造と機能を理解する			
内容 [栄養の消化と吸収] 1. 口・咽頭の構造と機能 2. 咽頭と食道の構造と機能 3. 胃と小腸の構造と機能 4. 大腸の構造と機能		5. 大腸の構造と機能 6. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 7. 腹膜、まとめ 8. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅲ	講師名	矢田 克嗣
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 人体の生命現象のメカニズムを理解するために、解剖学的に人体の形態と構造、生理学的に役割と機能を学び、看護における生活体としての人間の理解に活用する。			
目標 1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する。 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして、人体の構造と機能を理解する。			
内容 [体液の調整と尿の生成] 1. 腎臓・糸球体の構造と機能 2. 尿細管・傍糸球体装置の構造と機能 3. クリアランスと糸球体濾過量、腎臓から分泌される生理活性物質 4. 排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿 5. 体液の調節		[生殖・発生と老化のしくみ] 6. 男性生殖器 7. 女性生殖器、まとめ 8. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅳ	講師名	恵島之彦、戸堂慎一、岩田博生
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人体の生命現象のメカニズムを理解するために、解剖学的に人体の形態と構造、生理学的に役割と機能を学び、看護における生活体としての人間の理解に活用する。			
目標 1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する。 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして、人体の構造と機能を理解する。			
内容 [身体の支持と運動] 1. 人体の骨格 2. 筋 3. 脊椎 4. 呼吸筋、腹部の筋 5. 上肢の骨格と筋 6. 上肢の骨格と筋 7. 下肢の骨格筋のまとめ 8. 頭頸部の骨格と筋		9. 上下肢の骨格・筋 10. まとめ [外部環境からの防御] 11. 皮膚の構造と機能 12. 生体防御機構 13. 体温とその調節 14. まとめ 15. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 90分、100点(1～10は80点、11～14は20点)	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅴ	講師名	藤井良幸、廣崎嘉紀、竹本市紅
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人体の生命現象のメカニズムを理解するために、解剖学的に人体の形態と構造、生理学的に役割と機能を学び、看護における生活体としての人間の理解に活用する。			
目標 1. 基礎的な人体各器官の正常な位置・構造や機能を知り、各器官系あるいは各臓器に関連したメカニズムについて理解する。 2. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための専門的基礎づくりとして、人体の構造と機能を理解する。			
内容 [情報の受容と処理] 1. 神経系の構造と機能 2. 脊髄の構造と機能 3. 脳の構造と機能 4. 脊髄神経の構造と機能 5. 脳神経の構造と機能 6. 脳の高次機能 7. 運動機能と下行伝導路		8. 感覚機能と上行伝導路 9. 疼痛(痛み) 10. まとめ [情報の受容と処理] 11. 眼の構造と視覚 12. 耳の構造と聴覚・平衡覚 13. 味覚と嗅覚 14. まとめ 15. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 90分、100点(1～10は60点、11は20点、13は20点)	

授業科目名	病理学	講師名	高田 信康
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人体の構造と機能において、正常から逸脱する場合の人体の病的状態について、病変の分類ごとにその特徴と主な疾患を学び、看護における対象者の疾患の病態理解につなげる。			
目標 1. 病理学の意義と役割を理解し、病気のメカニズムを理解する 2. 各病変の分類ごとに原因、病状のメカニズム、主な疾患について理解する 3. 人体の老化、死のメカニズムを理解する 4. 病理検査の意義と方法、検体の扱い方について理解する			
内容 1. 病理学とは、病気の分類 2. 細胞・組織の障害、循環異常 3. 循環異常、炎症と免疫 4. 動脈硬化 5. 老化と死 6. 循環器系疾患 7. 循環器系疾患		8. 血液・造血器系疾患 9. 呼吸器系疾患 10. 消化器系疾患 12. 消化器系疾患 13. 腎・泌尿器、生殖器、内分泌系疾患 14. 脳神経、骨・筋肉系疾患 15. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学(医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 90分、100点	

授業科目名	栄養学	講師名	中井 久美子
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 人間の生命現象を維持するために、摂取した栄養素は消化・吸収され、生体の細胞レベルで利用できる形にして送られる。栄養素の分解・合成過程である代謝のしくみと生命体を維持するための栄養学の基礎について学び、看護における健康の増進・疾病の予防、回復の促進につながる栄養摂取の促進に活用する。			
目標 1. 生体が健全な発育・成長をして生命活動を営むために、体外から取り入れるべき必須栄養素について理解する。 2. 発達段階や健康レベルに応じた栄養の知識を学び、栄養と生活習慣との関連について理解する。 3. ヘルスサービスの一環として、個々の対象の栄養状態を改善し、QOLを向上するための栄養ケア・マネジメントの基礎を理解する。			
内容 1. 看護と栄養、栄養素の種類とはたらき 2. 食物の消化・吸収・代謝 3. エネルギーの代謝、食品成分と体組織 4. 栄養ケア・マネジメント、ライフステージと栄養		5. 栄養素とその機能 6. 高齢期の栄養と疾患 7. 疾患と食事療法 8. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 人体の構造と機能③ 栄養学 医学書院			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	薬理学	講師名	綿野 智一
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 薬理が生体に及ぼす生化学的、生理的薬理作用や薬物の吸収、分布、代謝と排出等生体内での薬物動態について基礎的知識を学ぶ。また病変の分類にそって治療薬の特徴、作用、副作用について学び、看護活動に活用する。			
目標 1. 薬理学の意義について理解する。 2. 薬理の作用、副作用、薬物動態、薬物の使用方法の有益性と危険性等についての基礎的知識を学ぶ。 3. 薬に関する法律を学び、安全な取り扱いについて理解する。 4. 各疾患や身体の機能別分類にそって治療薬の目的、特徴について理解する。			
内容 1. 薬理学総論 1 2. 薬理学総論 2 3. 自律神経系 4. 中枢神経系 1 5. 中枢神経系 2 6. 循環器系 1 7. 循環器系 2 8. 抗感染症 9. 抗がん剤 10. 免疫治療剤 11. 抗炎症薬 12. 呼吸器・消化器系 13. 生殖器、代謝系 14. 皮膚、眼科 15. 筆記試験			
教科書 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	臨床検査学	講師名	田畑 泰弘
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 疾病の診断や治療方針を決定する際には、臨床検査の知識は欠かすことができない。フィジカルアセスメントの基礎知識としても、医療を合理的におこなう上で不可欠な手段であり、臨床検査の意義や内容を学修し、疾病・病態と関連させて学ぶ。			
目標 1. 臨床検査とその役割について理解する。 2. 臨床検査各論を学び、看護の場面で活用するための知識を身につける。			
内容 1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割 3. 一般検査、血液学的検査 4. 化学検査、血清学的検査 5. 内分泌学的検査、微生物学的検査 6. 病理検査、生体検査① 7. 生体検査②、臨床検査総括 8. 筆記試験			
教科書 系統看護学講座別巻 臨床検査 医学書院			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	疾病治療論 I	講師名	岩田信生、恵島之彦、戸堂慎一
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人体の構造と機能および病理学で学修した知識を土台として、呼吸器系、血液・造血機能系、運動器系の疾患について、原因、発症メカニズム、病態、症状、検査、治療について理解し、看護活動に活用する。			
目標 1. 構造と機能について復習し、学修の動機づけを図る。 2. 主な症状の発生機序と病態生理について理解する。 3. 主な検査の目的と方法、留意事項について理解する。 4. 治療・処置の目的と方法、留意事項について理解する。 5. 主な疾患の原因、病態生理、症状、治療法について理解する。			
内容 [呼吸器系] 1. 呼吸器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 主な疾患と治療(感冒、肺炎、結核) 3. 主な疾患と治療 COPD、気管支喘息) 5. 主な疾患と治療(呼吸不全、肺腫瘍) [血液・造血器系] 6. 血液の機能と造血のしくみ 7. 検査、症状と病態生理 8. 赤血球の異常、白血球の異常、造血器腫瘍 9. 白血病 10. 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患 [運動器系] 11. 運動器の構造と機能 症状とその病態生理 12. 検査、治療 13. 主な疾患と治療(骨折、腰椎椎間板ヘルニア、変形性関節症、人工関節置換術) 14. 主な疾患と治療(骨腫瘍、関節リウマチ、脊髄損傷、骨粗鬆症) 15. 筆記試験			

教科書 系統看護学講座 成人看護学 ②呼吸器 ④血液・造血器 ⑩運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論 医学書院	
授業の形態・方法 講義	評価方法 筆記試験 90分 100点 (1～9は70点、6～14は30点)

授業科目名	疾病治療論Ⅱ	講師名	泉 康雄、佐藤弘章
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人体の構造と機能および病理学で学修した知識を土台として、循環器系、腎・泌尿器系の疾患について、原因、発症メカニズム、病態、症状、検査、治療について理解し、看護活動に活用する。			
目標 1. 構造と機能について復習し、学修の動機づけを図る。 2. 主な症状の発生機序と病態生理について理解する。 3. 主な検査の目的と方法、留意事項について理解する。 4. 治療・処置の目的と方法、留意事項について理解する。 5. 主な疾患の原因、病態生理、症状、治療法について理解する。			
内容 [循環器系] 1. 心臓・血管の構造と機能 2. 症状と病態生理(胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神、四肢の疼痛、ショック) 3. 主な検査(心電図、胸部X線検査、心エコー法、心臓カテーテル法、モニタリング、心臓核医学検査、CT、MRI) 4. 治療と処置 5. 主な疾患と治療(虚血性心疾患) 6. 主な疾患と治療(心不全、高血圧) 7. 主な疾患と治療(心臓弁膜症、不整脈) [腎・泌尿器系] 8. 腎・泌尿器の構造と機能 9. 主な検査、尿の異常(尿検査) 10. 主な検査(生検) 11. 主な疾患と治療(慢性腎臓病) 12. 治療総論・食事療法 13. 主な疾患と治療(腎不全) 14. 主な疾患と治療(ネフローゼ症候群) 15. 主な疾患と治療(糖尿病性腎症) 16. 筆記試験			

教科書 系統看護学講座 成人看護学 ③循環器 ⑧腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座臨床 別巻 臨床外科看護学総論 医学書院	
授業の形態・方法 講義	評価方法 筆記試験 90分、100点(1～7は50点、8～15は50点)

授業科目名	疾病治療論Ⅲ	講師名	岩崎幸恵、市田和裕
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 人体の構造と機能および病理学で学修した知識を土台として、消化器系、内分泌・代謝系、アレルギー・膠原病・感染症の原因、発症メカニズム、病態、症状、検査、治療について理解し、看護活動に活用する。			
目標 1. 構造と機能について復習し、学修の動機づけを図る。 2. 主な症状の発生機序と病態生理について理解する。 3. 主な検査の目的と方法、留意事項について理解する。 4. 治療・処置の目的と方法、留意事項について理解する。 5. 主な疾患の原因、病態生理、症状、治療法について理解する。			

<p>内容 [消化器系]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器の構造と機能 2. 症状と病態生理 3. 主な検査 4. 治療 5. 主な疾患と治療（食道がん、胃・十二指腸潰瘍、胃がん、潰瘍性大腸炎、イレウス、大腸ポリープ、虫垂炎、大腸がん） 6. 主な疾患と治療（肝炎、肝硬変症、肝がん、門脈圧亢進症、膵炎、膵がん、胆石症、胆管がん） <p>[内分泌・代謝系]</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 内分泌・代謝器官の構造と機能 8. 症状と病態生理 9. 主な疾患（内分泌疾患） 10. 主な疾患と治療（代謝性疾患） <p>[アレルギー・膠原病・感染症]</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. アレルギー疾患の理解 12. 膠原病 13. ～14. 感染症：感染症とは、検査・診断、治療、疾患の理解 15. まとめ 16. 筆記試験 	
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 ⑤消化器 ⑥内分泌・代謝 ⑪アレルギー・膠原病・感染症</p> <p>系統看護学講座臨床 別巻 臨床外科看護学総論 医学書院</p>	
授業の形態・方法	講義
評価方法	筆記試験 90分 100点（1～6は40点、7～14は60点）

授業科目名	疾病治療論Ⅳ	講師名	藤井良幸、廣崎嘉紀、竹本市紅、野木 渡、古川豪亮、岩田博生	
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間	
概要 人体の構造と機能および病理学で学修した知識を土台として脳・神経系、皮膚・眼・耳鼻咽喉・歯・口腔系の疾患について、原因、発症メカニズム、病態、症状、検査、治療について理解し、看護活動に活用する。				
目標 1. 構造と機能について学修し、学習の動機づけを図る。 2. 主な症状の発生機序と病態生理について理解する。 3. 主な検査の目的と方法、留意事項について理解する。 4. 治療・処置の目的と方法、留意事項について理解する。 5. 主な疾患の原因、病態生理、症状、治療法について理解する。				
内容 [脳・神経系] 1. 脳・神経の構造と機能 2. 症状と病態生理(意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、自律性のある機能障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア、髄膜刺激症状、頭痛) 3. 主な検査(神経学的診察、補助的検査法) 4. 主な疾患と治療(パーキンソン病、髄膜炎、てんかん、アルツハイマー病) 5. 主な疾患と治療(脳血管障害、脳腫瘍、ギランバレー症候群、ALS、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性硬化症) 6～7. 精神疾患と治療				
[皮膚] 8. 熱傷、創傷 9. アトピー性皮膚炎 10. 帯状疱疹、蜂窩織炎	[眼] 11. 白内障、緑内障 12. 網膜剥離、結膜炎	[耳鼻咽喉] 13. 中耳炎、メニエール病、突発性難聴 14. 扁桃炎、喉頭がん	[歯・口腔] 15. 齲歯、歯周疾患 16. まとめ 17. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 成人看護学 ⑦脳・神経 ⑫皮膚 ⑬眼 ⑭耳鼻咽喉 ⑮歯・口腔 精神看護学1				
授業の形態・方法 講義 評価方法 筆記試験 90分、100点(1～6は45点、7～8は15点、は各10点)				

授業科目名	人間工学	講師名	立石 知士	
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間	
概要 看護のプロセスは、人と人、人と機器・用具、人と組織との関わりが実に多様で、かつ機密である。患者、看護者両者の安全、安楽の確保にとって、人間工学を学ぶ意義は大きい。この技術を習得することで、基礎看護技術の効率も上昇し、看護の質の向上にもつながる。				
目標 医療・看護分野における機械・器具、空間との安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学を学ぶ。				
内容 1. 看護の人間工学とは 2. 看護の安全と人間工学 3. 入院患者の日常生活行動における看護と人間工学 (1) ボディメカニクス (2) 安全な体位と体位変換 4. 車椅子移乗における問題点		5. 食べる意味とは、嚥下機能 6. 療養環境の改善 7. 排泄動作とは、必要な機能 8. 筆記試験		
教科書 看護の人間工学 医歯薬出版株式会社				
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点		

授業科目名	リハビリテーション論	講師名	坂口 史紘
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 リハビリテーションの理念、障害の分類、医療システム等をふまえて、障害者の理解と系統別にリハビリテーションの方法について学び、看護に活用する。			
目標 1. リハビリテーションの定義と理念について理解する。 2. リハビリテーション看護の概念と目的について理解する。 3. リハビリテーションにおける倫理と法的問題について学ぶ。 4. 系統別リハビリテーションについて理解する。 5. リハビリテーションの到達目標と評価について理解する。 6. リハビリテーションの実際について学ぶ。			
内容			
1. リハビリテーションの定義と理念 2. リハビリテーション看護の定義と対象 3. リハビリテーション看護の方法 4. 運動器系の障害とリハビリテーション看護① 5. 運動器系の障害とリハビリテーション看護② 6. 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護① 7. 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護② 8. 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護③		9. 中枢神経系障害とリハビリテーション看護④ 10. 中枢神経系障害とリハビリテーション看護⑤ 11. 中枢神経系障害とリハビリテーション看護⑥ 12. 中枢神経系障害とリハビリテーション看護⑦ 13. 中枢神経系障害とリハビリテーション看護⑧ 14. 感覚器系・循環器系の障害とリハビリテーション看護③ 15. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	カウンセリング理論	講師名	野出 榮一
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
概要 カウンセリングの理論や技法を学び、対象者を理解し、関係を形成する技法を学ぶ。また、そのために必要な自己理解、他者理解の重要性について学ぶ。			
目標 1. カウンセリングの概念について理解する。 2. 自己理解、他者理解の基本について理解する。 3. カウンセリングの基礎理論について学ぶ。 4. 近年の保健・医療・福祉におけるカウンセリングの動向について学ぶ。			
内容			
1. 看護現場における心のケア 2. 看護現場における独自のケア技術 3. 傾聴 4. 傾聴、来談者中心療法		5. 面接技法 6. 傾聴と受容 7. デモンストレーション 8. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	公衆衛生学	講師名	加瀬 哲男
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 疾病を予防し、人々の健康生活を保持・増進させていくために活用される科学的手法を理解し、個人・家族・地域・国レベルでの健康支援のあり方を学び、看護活動に活用する。			
目標 1. 公衆衛生の概念について理解する。 2. プライマリヘルスケアの概念と意義について理解する。 3. 環境と健康の関係について理解する。 4. 科学的手法としての疫学の活用について理解する。 5. 日本および世界の公衆衛生をめぐる現状を理解する。 6. 地域保健および対象別、場面別公衆衛生の実践について理解する。			
内容 1. 感染症の制御新型とコロナウイルス感染症 2. 公衆衛生と疫学 3. 行政・地域保健法・保健所・健康日本 21 4. 環境と健康 5. 母子保健 6. 成人保健 7. 成人保健		8. 高齢者保健 9. 精神保健 10. 難病支援・障害保健 11. 学校保健 12. 産業保健 13. 危機管理 14. 世界保健・まとめ 15. 筆記試験	
教科書 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 医学書院			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	社会福祉論	講師名	前島 良弘
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
概要 1. あらゆる発達段階における国民の最低生活を支える社会保障制度の概念と法制度について学ぶ。そのなかで、障害者や要介護高齢者等社会的援護を要する人たちの自立に向けて生活支援を行う社会福祉施策について理解し、看護と福祉の連携の重要性および社会福祉施策の活用について学ぶ。 2. 高石市における福祉行政の課題を理解すると共に、地域包括ケアシステムにおける他機関・多職種との連携について学ぶ。			
目標 1. 社会の変化と社会福祉の変遷について学ぶ。2. 社会保障制度および社会福祉の概念について理解する。 3. 現代社会の変化と社会保障、社会福祉の動向を理解する。4. 医療保障制度の構造と体系について理解する。 5. 介護保障の歴史と制度の概要、課題、展望について理解する。6. 所得保障制度のしくみと内容を理解する。 7. 公的扶助の意義と制度のしくみを理解する。8. 社会福祉の各分野とサービスについて理解する。 9. 社会福祉実践のための援助技術について学ぶ。 10. 高石市の福祉行政・地域包括ケアシステムにおける取り組みと課題を学ぶ。			
内容 1. 2. 統計に見る暮らし 3. 社会保険制度 4. 国を支える人々の暮らしと仕事 5. 単元別テスト 6. 統計 7. 公的扶助のしくみ 8. 統計のまとめ		9. 社会福祉の歴史演習 10. 単元別テスト(生保) 11. 単元別テスト(社福) 12. 児童福祉・母子・女性福祉 13. 14. 終講テスト対策 15. 筆記試験	
教科書 看護のための法と社会保障制度 ふくろう出版			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分、100点	

授業科目名	関係法規	講師名	前島 良弘
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
<p>概要 医療に携わる看護師の業務は人々の生命の安全や尊厳に直接的にかかわる仕事であり、看護師は国民の健康生活を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、法令をふまえた実践をする必要があり、看護活動に関係する法令について学ぶ。</p>			
<p>目標 1. 法の概念と衛生法の概念について理解する。 2. 医事法に含まれる保健師助産師看護師法およびその他の医療・福祉関係者の法令について理解する。 3. 保健衛生法の目的と各法令について理解する。 4. 薬務法の目的と各法令について理解する。 4. 環境衛生法の目的と各法について理解する。 5. 社会保険法、福祉法、労働法、環境法の各目的と法令について理解する。</p>			
<p>内容</p> <p>1. 導入と資料の使い方</p> <p>2. 国際看護と活動について</p> <p>3. 単元テスト</p> <p>4. 法と社会と制度</p> <p>5. 国民衛生の動向と法制度</p> <p>6. 社会保障給付比と関係比</p> <p>7. 看護の対象の人生と法</p>		<p>8. 国試必須項目の概説</p> <p>9. 保助看法、人確法</p> <p>10. 保助看法、人確法</p> <p>11. 関連法規</p> <p>12. 単元別テスト</p> <p>13. 終講対策</p> <p>14. 終講対策</p> <p>15. 筆記試験</p>	
<p>教科書 看護のための法と社会保障制度 ふくろう出版</p>			
<p>授業の形態・方法 講義、演習</p>		<p>評価方法 筆記試験 60分、100点</p>	

基礎看護学の構成

13 単位、420 時間

目的：看護の概念と役割を学び、対象の理解と看護を実践する基礎的能力（知識・技術・態度）を養う。

講義科目	単位	時間	学年	目 標
看護学概論	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学を構成している要素を学び、看護の概念と看護の目的を理解し、看護の基礎知識を身につける。 2. 看護師としての倫理的な考えや判断ができる能力・態度を養う。
看護研究 I	1	15	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索方法を学び、看護に関する複数の研究論文を総括的に検討し、プレゼンテーションができる。
看護技術論	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術を看護実践のなかで活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ。 2. 看護技術の特徴を理解する。 3. 看護技術を適切に実践するための条件を理解する。 4. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する。 5. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。
生活援助技術 I	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する。
生活援助技術 II	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活援助（清潔・衣、食、排泄）の技術を修得する
ヘルスアセスメント技術	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する。 2. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することができる。 3. フィジカルアセスメントの概念と技術を学び、それによって得られる客観的データについて理解することができる。
診療補助技術	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・治療・処置・医療機器の扱いにおける看護について学び、その技術を習得することができる。
臨床看護総論	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害の各期の特徴を理解し、援助方法を修得する。 2. 主要な症状を示す対象者への援助について理解する。 3. 死の看取りの基礎技術を修得する。 4. 救命救急医療の特徴を知り、基礎的知識・技術を修得する。
看護過程展開技術 I	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開の技術を理解する。
看護過程展開技術 II	1	30	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開の技術を活用し、紙上事例を用いて展開する。
基礎看護学実習 I	1	45	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の役割と機能・保健医療チームの実際が理解できる。 2. 看護活動の実際を通して看護の機能と役割が理解できる。 3. 対象とのコミュニケーションを通して看護師としての接し方を理解する。

				<ul style="list-style-type: none"> 4. 既習の技術を用いて日常生活援助が実践できる。 5. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。
基礎看護学 実習Ⅱ	2	90	2	<ul style="list-style-type: none"> 1. 対象を総合的に理解し、看護過程を展開できる。 2. 患者の個別性に応じた看護援助が実施できる。 3. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。

基礎看護技術学内演習内容

	講義科目	学年	項目
基礎看護学	看護技術論	1	<ul style="list-style-type: none"> 1. スタンダードプリコーション 2. 滅菌操作 3. 感染性廃棄物の取り扱い
	生活援助 技術Ⅰ	1	<ul style="list-style-type: none"> 1. 環境整備 2. ベッドメイキング 3. リネン交換 4. 歩行・移動の介助、移送 5. 体位変換、安楽な体位
	生活援助 技術Ⅱ	1	<ul style="list-style-type: none"> 1. 清拭、入浴介助、洗髪、整容、陰部ケア、足浴 2. 便器・尿器の使い方、寝衣交換、おむつ交換 3. 食事介助、口腔ケア 4. 排泄
	ヘルスアセスメント 技術	1	<ul style="list-style-type: none"> 1. バイタルサイン（体温・脈拍・血圧・意識）の観察 2. 身体計測 3. フィジカルアセスメント（聴診・打診・視診）、呼吸音・腸蠕動音聴取
	診療補助技術	1	<ul style="list-style-type: none"> 1. 創傷処置 2. 採血、血糖値測定 3. 与薬（皮下・筋肉内・静脈内注射、輸液、内服） 4. 心電図
	臨床看護総論	1	<ul style="list-style-type: none"> 1. 酸素吸入、吸引（口腔内） 2. 導尿、浣腸 3. 経管栄養法、PEG 4. 身体可動域運動 5. 電法

授業科目名	看護学概論	講師名	伊藤 照美
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護学を構成している要素を学び、看護の概念と看護の目的を理解し、看護の基礎知識を身につける。 2. 看護師としての倫理的な考えや判断ができる能力・態度を養う。			
内容 1. 看護を志す初学者としての基本的考え方 2. 看護の本質とは(看護の歴史の変遷) 3. 看護の本質とは(看護の定義) 4. 看護の役割と機能(看護ケア) 5. 看護の役割と機能(看護実践に欠かせない要素) 6. 看護の対象の理解 7. 健康のとらえ方		8. 国民の健康状態とライフサイクル 9. 職業としての看護 10. 看護概念の探求の発表 11. 看護概念の探求の発表 12. 看護における倫理 13. サービスとしての看護の提供の場 14. 看護サービスの管理、医療安全と医療の質の保証 15. 筆記試験	
教科書 看護学概論(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分 80点、レポート 20点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護学概論の授業を行う。			

授業科目名	看護研究Ⅰ	講師名	橋本龍也
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
学修目標 1. 文献検索方法を学び、看護に関する複数の研究論文を総括的に検討し、プレゼンテーションができる。			
内容 1. 看護研究の概要、文献検索の意義 2. 課題作成のための量的研究と論文作成の方法 3. 計画書指導、研究材料の作成 4. 実験の実際		5. データーの整理と分析 6. データー分析と論文作成 7. 論文作成 8. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分 50点、レポート 50点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護研究Ⅰの授業を行う。			

授業科目名	看護技術論	講師名	大西 美穂
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護技術を看護実践のなかで活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ。 2. 看護技術の特徴を知る。 3. 看護技術を適切に実践するための条件を理解する。 4. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する。 5. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。			
内容 1. 看護技術とは 2. 安全・安楽について 3. 感染予防① 4. 感染予防②(スタンダードプリコーション演示) 5. 標準予防策(スタンダードプリコーション演習) 個人防護用具・・・●△ 6. 感染経路別予防策(洗浄・消毒・滅菌) 7. 無菌操作、感染性廃棄物		8. 9. 無菌操作・・・● 10. コミュニケーション 11. 人間関係とコミュニケーション 12. 効果的なコミュニケーションの実際 13. 看護におけるコミュニケーション 14. コミュニケーション障害への対応 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点 実技レポート含む 20点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護技術論の授業を行う。			

授業科目名	生活援助技術Ⅰ	講師名	坂中 麻紀
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する。			
内容 1. 環境の意義、病床環境 2. 病床環境の調整 3. ベッドメイキングの根拠 4. ベッドメイキング演習・・・☆ 5. ボディメカニクス・・・● 6. 体位変換演習・・・● 7. 臥床患者のシーツ交換 8. 歩行・移乗・移送 9. ベッドメイキングテスト		10. ベッドから車いすへの移乗・移送演習 11. ベッドから車いすへの移乗・移送演習 12. ベッドから車いすへの移乗・移送演習 13. ベッドからストレッチャーへの移乗 14. 睡眠のメカニズムの理解と、障害についてのアセスメントを学び、必要な援助方法を理解する。 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点 実技レポート含む 20点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅰの授業を行う。			

授業科目名	生活援助技術Ⅱ	講師名	中務 優子
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 日常生活への看護を学び、その技術を習得することができる。			
内容 1. 清潔援助の基礎知識、衣生活の援助 2. 全身清拭真意交換の援助・演習 3. 全身清拭・・・☆ 4. 足浴とフットケア・・・● 5. 足浴演習 6. 陰部洗浄・・・● 7. 陰部洗浄演習 8. 洗髪・・・●		9. 洗髪演習 10. 食生活への看護の技術を習得する。 食事介助・・・● 11. 排泄への看護の技術を学ぶ。 12. 床上排泄援助・・・● おむつによる排泄援助・・・● 13. 陰部洗浄技術チェック 14. 全身清拭テスト 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅱの授業を行う。			

授業科目名	ヘルスアセスメント技術	講師名	坂中 麻紀
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する。 2. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することができる。 3. フィジカルアセスメントの概念と技術を学び、それによって得られる客観的データについて理解することができる。			
内容 1. フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント 2. 全体の概要、問診・視診・触診・打診・聴診 3. 系統的フィジカルアセスメント 4. 系統的フィジカルアセスメント 5. 呼吸音の聴診、腹部の聴診・触診 6. バイタルサインの観察とポイント 7. バイタルサイン測定要項 8. 9. バイタルサイン測定演習 (4) 身長・体重・腹囲・・・●		10. 身体計測 11. ケースを用いたフィジカルアセスメント 12. ケースを用いたフィジカルアセスメント 13. バイタルサイン測定技術テスト 14. ケースを用いたフィジカルアセスメント 15. 筆記試験	

教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)	
授業の形態・方法 講義、演習、実技	評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員がヘルスアセスメント技術の授業を行う。	

授業科目名	診療補助技術	講師名	坂中 麻紀
実施年次・時期	1年次 後期	時間数 (単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 検査・治療・処置における看護について学び、その技術を習得することができる。			
内容 1～5. 検査時の介助技術 1)採血 (1)注射器を用いた静脈血の採血・・・● (2)真空採血管を用いた静脈血の採血 (3)血糖測定・・・● 2)心電図検査の基礎知識・・・● 6. 医療機器の原理と実際 7. 治療・処置の介助 8～14. 与薬と注射についてと与薬の実際		(1)経口与薬 (2)吸入・・・△ (3)点眼・・・△ (4)点鼻・・・△ (5)経皮的与薬 (6)直腸内与薬・・・△ (7)注射 皮下注射・・・● 皮内注射・・・△ 筋肉内注射・・・● 静脈内注射 ワンシヨット・・・△ 点滴静脈内注射・・・● 輸液・シリンジポンプを用いた輸液・・・● 15. 筆記試験	

教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)	
授業の形態・方法 講義、演習、実技	評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が診療補助技術の授業を行う。	

授業科目名	臨床看護総論	講師名	中務 優子
実施年次・時期	1年次 後期	時間数 (単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 健康障害の各期の特徴を理解し、援助方法を修得する。 2. 主要な症状を示す対象者への援助について理解する。			
内容 1. ライフサイクルと発達段階、健康の維持・増進の看護 2. 健康状態の経過に基づく看護 3. 主要症状を示す対象者への看護、呼吸症状 4. 循環に関する症状を示す患者の看護 5. 栄養や代謝、排泄に関する症状を示す患者の看護 6. 活動や休息、コーピング、生体防御に関する症状を示す患者の看護 電法 温電法・冷電法・・・●		7～8. 呼吸・循環機能障害の援助 ①酸素吸入療法 酸素ボンベの取り扱い・・・● ②吸引 一時的吸引 (口腔・鼻腔・気管)・・・● 持続的吸引 (胸腔ドレナージ) ③排痰ケア④末梢循環促進ケア 9～11. 排泄機能障害 ①導尿 一時的導尿・・・● 持続的導尿・・・● ②排便を促す援助 ・浣腸・・・● 摘便 12～13. 経過別、症状別、対象理解の演習 15. 筆記試験	

教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)	
授業の形態・方法 講義、演習、実技	評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が臨床看護総論の授業を行う。	

授業科目名	看護過程展開技術Ⅰ	講師名	大西 美穂
実施年次・時期	1年次 後期	時間数 (単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護過程の展開の技術を理解することができる。			
内容 1. 記録と倫理 2. 看護記録 3. 報告 4. カンファレンス 5. カンファレンス (演習)		6. 学習支援 7. 看護における安全・安楽・個別性 8～11. 事例展開 12～14. 演習 (事例を用いて) 15. 筆記試験	
教科書 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ (医学書院)			

授業の形態・方法	講義、演習	評価方法	筆記試験 50分60点、レポート40点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護過程展開技術Ⅰの授業を行う。			

授業科目名	看護過程展開技術Ⅱ	講師名	大西 美穂
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護過程の展開の技術を活用し、紙上事例を用いて展開する。			
内容 1. 看護過程とは 2～3. NANDA とは、NANDA の概念枠組み 4. 情報収集 5～7. アセスメント 8. 関連図、看護問題の明確化		9. 看護計画 10～11. グループワーク 12～13. 関連図・看護計画発表 14. 実施と評価、SOAP の書き方 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)、NANDA看護診断ブック			
授業の形態・方法	講義、演習	評価方法	筆記試験 60分50点、課題レポート50点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護過程展開技術Ⅱの授業を行う。			

成人看護学の構成

12 単位 450 時間

目的：健康や不健康状態をひとつの一連続体としてとらえ、人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、健康段階に合わせた看護が展開できる能力を養う。

- 目標：1. 大人を対象に、最適な健康を促進、維持、増進するための看護を理解する。
 2. 現代を生きる成人の生活や生き方について捉え、成人の健康状態や健康問題を理解することができる。
 3. 生活や健康に関する動向を捉え、成人の健康生活を多角的にとらえる視点をもつことができる。
 4. 多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方や方法を学ぶことができる。

講義科目	単位	時間	学年	目 標
成人看護学 概論	1	30	1	1. 人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体・精神・社会的側面から理解する。 2. 成人保健に関する施策やヘルスケアシステムについて学ぶ。
成人看護学 方法論Ⅰ	2	60	2	1. 急性期にある対象の回復支援について理解する。 2. 急性期にある対象の疾病や検査・治療、および周手術期にある対象の心身に及ぼす影響を学び、看護師の役割を理解する。
成人看護学 方法論Ⅱ	1	30	2	1. 慢性疾患に罹患している成人期の対象の看護を理解する。 2. 疾病に罹患した成人期にある対象に対して、自己管理を支援し、社会復帰するための健康支援の方法を理解する。
成人看護学 方法論Ⅲ	1	30	2	1. 疾病に罹患した成人期にある対象に対して、自己管理を支援し、社会復帰するための健康支援の方法を理解する。
成人看護学 方法論Ⅳ	1	30	2	1. がん治療の場と看護の実際を理解する。 2. 緩和ケアにおける看護介入の実際を理解する。 3. 終末期にある対象者の家族の悲嘆やおかれた状況を理解し、支援の方法を学ぶ。 4. 自己の死生観を形成し深めることができる。
成人看護学 実習Ⅰ	2	90	2	1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と成人各期の特徴から総合的に理解できる。 2. 対象の疾患の病態・検査について理解し、フィジカルアセスメントができる。 3. 健康障害が対象の発達課題やライフスタイルに及ぼす影響が理解できる。 4. 看護上の問題点を明確にし、看護計画を立案・実施・評価ができる。 5. チームの一員としての自覚を持ち、適切な時期に報告・連絡ができる。 6. 人間関係の構築に向けて、対象とコミュニケーションを図ることができる。 7. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。
成人看護学 実習Ⅱ	2	90	3	1. 成人期の慢性状態にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と成人各期の特徴から総合的に理解できる。 2. 慢性状態にある対象の疾患の病態及び治療・検査について理解し、フィジカルアセスメントができる。 3. 慢性的な健康障害が対象の発達課題やライフスタイルに及ぼす影響

				<p>が理解できる。</p> <p>4. 慢性状態の対象の看護上の問題を明確にし、看護計画を立案・実施・評価ができる。</p> <p>5. 対象のセルフケア能力を高めるために、必要なチームメンバーとの連携の必要性が理解できる。</p> <p>6. 社会復帰を果たすための継続看護の必要性が理解できる。</p> <p>7. 人間関係の構築に向けて、対象とのコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>8. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。</p>
成人看護学 実習Ⅲ	2	90	3	<p>1. 成人期の急性状態にある対象の身体的・精神的・社会的特徴と成人各期の特徴から総合的に理解できる。</p> <p>2. 急性状態にある対象の疾患の病態及び治療・検査について理解し、フィジカルアセスメントができる。</p> <p>3. 急性の健康障害が対象の生活に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>4. 急性状態の対象の看護上の問題を明確にし、看護計画を立案・実施・評価ができる。</p> <p>5. 対象の生命維持又は回復促進のために、必要なチームメンバーとの連携の必要性が理解できる。</p> <p>6. 人間関係の構築に向けて、対象とコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>7. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。</p>

授業科目名	成人看護学概論	講師名	阪上 弥佐子
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体・精神・社会的側面から理解する。 2. 成人保健に関する施策やヘルスケアシステムについて学ぶ。			
内容 1～4. 成人の特徴 (1) 生涯発達の特徴(2) 青年期の特徴(3) 壮年期・中年期の特徴(4) 成人期の生活の特徴 5～6. 成人の生活と健康、成人保健対策		7～10. 成人への看護アプローチの基本 11. 看護におけるマネジメント 12. 看護の自己実現とマズロー 13. 看護実践における倫理的判断 14. 看護におけるヘルスプロモーション 15. 筆記試験、振り返り	
教科書 成人看護学総論(医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点	
その他の事項 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が成人看護学概論の授業を行う。			

授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ	講師名	岩崎幸恵、有馬、宮本、阪上
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	2単位 60時間
学修目標 1. 急性期にある対象の回復支援について理解する。 2. 急性期にある対象の疾病や検査・治療、および周手術期にある対象の心身に及ぼす影響を学び、看護師の役割を理解する。			
内容 1. 急性期にある対象の特徴 2. 集中治療における看護の役割 3. 手術療法 4. 麻酔法 5. 手術中の看護 6～7. 手術後の看護 8～11. 急性の循環障害のある人の看護		12～14. 急性の脳・神経障害のある人の看護 15～21. 急性の栄養摂取・消化機能障害のある人の看護 22～23. 急性の運動機能障害のある人の看護 24. 急性の呼吸機能障害のある人の看護 25～29. 周手術期にある成人期患者の看護 事例展開 15. 筆記試験 振り返り	
教科書 成人看護学総論、臨床外科総論(医学書院)(医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 80点(Dr 20点、Ns 60点)、レポート 20点	

授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ	講師名	阪上、他
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 慢性疾患に罹患している成人期の対象の看護を理解する。 2. 疾病に罹患した成人期にある対象に対して、自己管理を支援し、社会復帰するための健康支援の方法を理解する。			
内容 1. 高血圧の看護について 2. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人 3. 慢性的な健康状態の揺らぎとは 4. 糖尿病の看護		5～6. 難病を患う患者の看護 7. 肥満の看護 8～14. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の看護 事例展開: 糖尿病・高血圧 15. 筆記試験 振り返り	
教科書 成人看護学総論、成人看護学(各系統)(医学書院)(医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 80点、レポート 20点	

授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ	講師名	江、阪上
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 疾病に罹患した成人期にある対象に対して、自己管理を支援し、社会復帰するための健康支援の方法を理解する。			
内容 1～3. 肝臓の機能の復習、肝炎・肝硬変の人の看護 4～5. 甲状腺を患っている患者の看護 6. 関節リウマチの人の看護 7. 悪性リンパ腫の看護 8. 自己免疫疾患の人の看護		9～10. 呼吸器疾患の患者の看護 11～12. 筆記試験 振り返り 13. 急性腎不全、慢性腎不全の患者の看護 14. 透析療法を受ける患者の看護 15. 血液透析を受ける患者の看護 16. 腹膜透析患者の看護	

教科書 成人看護学総論、成人看護学（各系統）（医学書院）	
授業の形態・方法 講義	評価方法 筆記試験 60分 80点、レポート 20点

授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ	講師名	長尾 充子
実施年次・時期	2年次 後期	時間数（単位）	1単位 30時間
学修目標 1. がん治療の場と看護の実際を理解する。 2. 緩和ケアにおける看護介入の実際を理解する。 3. 終末期にある対象者の家族の悲嘆やおかれた状況を理解し、支援の方法を学ぶ。 4. 自己の死生観を形成し深めることができる。			
内容 1. がん医療を取り巻く状況と病態と臨床経過 2. がん患者の看護 3～4. 緩和ケアにおける倫理的課題 5. 緩和ケアにおける看護介入 6～11. 症状マネジメントの実際		12. 精神的ケアと理論の実践、危機理論 13. スピリチュアルケアの理論と実践 14. 家族ケア、グリーフケア 15. 筆記試験 振り返り	
教科書 緩和ケア（医学書院）			
授業の形態・方法 講義	評価方法 筆記試験 60分 100点		

老年看護学の構成

8単位 285時間

目的：老年期にある対象者の特徴を理解し、保健・医療・福祉サービスシステムを活用しながら高齢者とその家族への看護が実践できる基礎能力を養う。

- 目標：1. 高齢者の身体的・精神的・社会的・霊的側面の特徴を知り、生活機能の観点から対象者の健康上の課題を理解する。
2. 高齢者の加齢に伴う変化を理解し、日常生活自立のために必要な技術を学ぶ。
3. 高齢者の健康問題とそれに伴う諸問題について理解し、高齢者と家族に対する看護の方法について学ぶ。
4. 健康医療福祉チームメンバーの一員としての看護役割・活動について学ぶ。
5. 高齢者の尊厳と権利について考えることができる

講義科目	単位	時間	学年	目標
老年看護学 概論	1	30	1	1. 人間のライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する 2. 高齢者の健康と保健・医療・福祉制度および課題を学び、高齢社会における看護の役割を理解する
老年看護学 方法論Ⅰ	2	45	2	1. 高齢者の日常生活とその援助の方法を理解する 2. 高齢者の加齢変化や健康障害の特徴を理解し、状態や状況に応じた看護の方法を学ぶ
老年看護学 方法論Ⅱ	1	30	2	1. 老年期に特有な疾患を抱える高齢者の看護の方法を理解する。 2. 老年期における死の意味を理解し、その人らしい生き方、終末期医療への援助方法を理解する
老年看護学 実習Ⅰ	2	90	2	1. 老人福祉施設・特別養護老人ホーム・老人保健施設の概要と特徴が理解できる。 2. 高齢者の身体的・精神的・社会的側面、生活史や老化との関連から総合的に理解できる。 3. 対象の健康レベルを身体的・精神的・生活機能的側面でアセスメントできる。 4. 対象の日常生活上の問題を明確にし、支援のための計画立案・実施・評価ができる。 5. 高齢者の残存機能を生かした日常の基本的な生活支援が実施できる。 6. チームの一員としての自覚を持ち、適切な時期に報告・連絡ができる。 7. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。
老年看護学 実習Ⅱ	2	90	3	1. 対象の身体的・精神的・社会的側面、生活史や老化との関連及び健康問題から総合的に理解できる。 2. 対象の看護上の問題を明確にし、健康レベルアップやセルフケア能力を向上する看護計画立案・実施・評価ができる。 3. 健康回復促進に必要な関連職種との連携、継続看護の必要性が理解できる。 4. 高齢者の特徴に応じたコミュニケーションがとれる。 5. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。

授業科目名	老年看護学概論	講師名	小橋 美栄子
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 人間のライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 高齢者の健康と保健・医療・福祉の制度および課題を学び、高齢社会における看護の役割を理解する。			
内容	1. プロローグ 2～5. 高齢者の特徴と理解 6. 高齢の現状 7～10. 高齢者を支える保健、医療福祉制度の変遷と看護の役割	1 1～1 2. 高齢者の権利擁護 1 3～1 4.. 老年看護の特徴 1 5. 筆記試験 振り返り	
教科書 老年看護学 (医学書院) 老年看護病態・疾患論 (医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点	

授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ	講師名	仲尾 左木子
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	2単位 45時間
学修目標 1. 高齢者の日常生活とその援助の方法を理解する。 2. 高齢者の加齢変化や健康障害の特徴を理解し、状態や状況に応じた看護の方法を学ぶ。			
内容	1. 高齢者理解 2. 高齢者によくみられる身体症状(発熱、痛み) 3. 高齢者によくみられる身体症状(掻痒、脱水、嘔吐、浮腫) 4. 高齢者によくみられる身体症状(倦怠感、うつ、せん妄、肺炎) 5. 基本動作と環境、廃用症候群のアセスメントと看護 6～8. 生活援助するためのアセスメントと援助(食) 9～10. 高齢者のコミュニケーション 1 1. 生活援助するためのアセスメントと援助(排泄)	1 2. 生活援助するためのアセスメントと援助(清潔) 1 3. 生活リズムを整える 1 4. 薬物療法時の看護 1 5～1 6. レクリエーションの演習 1 7. 薬物療法時の看護 1 8. 終末期を迎える高齢者の看護 1 9～2 2. 食・排泄の援助(演習) 2 3. 筆記試験 振り返り	
教科書 老年看護学 (医学書院) 老年看護病態・疾患論 (医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 80点 課題レポート 20点	

授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ	講師名	仲尾
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 老年期に特有な疾患を抱える高齢者の看護の方法を理解する。 2. 老年期における死の意味を理解し、その人らしい生き方、終末期援助の方法を理解する。			
内容	1～2. 老年期の認知機能障害と看護 3. 老年期の脳機能障害と看護 4. 老年期の呼吸機能障害と看護 5. 老年期の神経障害と看護 6. 老年期の運動機能障害と看護	7～1 4. 事例：_大腿骨頸部骨折(置換術)後の援助 安楽確保の技術・・・●、体動制限の苦痛緩和・・・● 創傷管理・・・●、弾性ストッキング・・・● 関節可動域・・・●、(車椅子移動)・・・● 15. 筆記試験 振り返り	
教科書 老年看護学 (医学書院) 老年看護病態・疾患論 (医学書院) NANDA 看護診断 (医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 80点 課題レポート 20点	

小児看護学の構成

6単位 195時間

目的：子どもの特性を理解し、あらゆる健康レベルにある子どもとその子どもを取り巻く人々の看護を実践していくことができる基礎的能力を養う。

目標：1. 子どもの成長・発達の特徴を学び、身体的・精神的・社会的側面から理解する。

2. 子どもを取り巻く環境や社会状況を理解し、子どもと家族に対する小児看護の役割について理解する。

3. あらゆる健康レベルの子どもに対して、対象をひとりの人として尊重し、子どもと家族を中心とした看護の方法を学ぶ。

4. 子どもの日常生活および療養生活をより良くするための援助の方法を学ぶ。

講義科目	単位	時間	学年	目 標
小児看護学 概論	1	30	1	1. 小児看護の特徴と理念、看護の役割を理解する。 2. 子どもの権利条約を学び、子どもの権利や倫理について考えることができる。 3. 小児の成長・発達の特徴を学び、身体的・精神的・社会的側面から理解する。 4. 子どもの健康に影響を及ぼす社会や家族など、子どもを取り巻く環境を理解する。 5. 子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 6. 子どもの諸統計をふまえ、子どもと家族を取り巻く法律や保健対策を理解する。
小児看護学 方法論Ⅰ	1	30	2	1. 子どもの健康の保持増進にむけた身体アセスメントを理解する。 2. 子どもの疾病の経過を理解し、子どもとその家族への看護の方法を理解する。 3. 子どもに出現しやすい症状を理解し、その看護の方法を理解する。 4. 検査や処置、手術を受ける子どもの看護の方法を理解する。 5. 小児看護におけるコミュニケーション技術や遊び、プレパレーション・ディストラクションを取り入れた看護の方法を学ぶ。 6. 子どもの看護技術を修得する。
小児看護学 方法論Ⅱ	2	45	2	1. 健康障害をもつ子どもの疾患や障害の理解および看護の方法を理解する。
小児看護学 実習	2	90	3	1. 健康な子どもの発達段階における特徴が理解できる。 2. 集団の中での健康な子どもの日常生活および成長発達を促す援助を理解できる。 3. 健康障害や入院が子どもや家族に与える影響を理解できる。 4. 子どもの発達段階の特徴と病態を理解し、援助に活かせることができる。 5. 小児看護に必要な基本的技術が習得できる。 6. 日常生活における小児の安全を守ることができる。 7. 小児医療の多職種の中での看護師の役割を理解できる。 8. 障害をもつ子どもの地域での生活状況や福祉・教育等の資源を知ることができる。

			9. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。
授業科目名	小児看護学概論	講師名	沖野 久美子
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 小児看護の特徴と理念、看護の役割を理解する。 2. 子どもの権利条約を学び、子どもの権利や倫理について考えることができる。 3. 小児の成長・発達の特徴を学び、身体的・精神的・社会的側面から理解する。 4. 子どもの健康に影響を及ぼす社会や家族など、子どもを取り巻く環境を理解する。 5. 子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 6. 子どもの諸統計をふまえ、子どもと家族を取り巻く法律や保健対策を理解する。			
内容 1. 小児看護の役割 2. 小児看護の特徴と理念 3. 成長発達の理解 4～5. 新生児・乳児の看護 6. 小児の栄養 7. 幼児・学童期の看護		8. 思春期・青年期の看護 9. 子どもと家族を取り巻く社会 10. 障害のある小児と家族の看護 11. 子どもの虐待と看護 12～13. 子どもと遊び 14. 家族の特徴とアセスメント 15. 筆記試験	
教科書 小児看護学概論、小児臨床看護学(医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点	
その他の事項 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が小児看護学概論の授業を行う。			

授業科目名	小児看護学方法論Ⅰ	講師名	沖野 久美子
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 子どもの健康の保持増進にむけた身体アセスメントを理解する。 2. 子どもの疾病の経過を理解し、子どもとその家族への看護の方法を理解する。 3. 子どもに出現しやすい症状を理解し、その看護の方法を理解する。 4. 検査や処置、手術を受ける子どもの看護の方法を理解する。 5. 小児看護におけるコミュニケーション技術や遊び、プレパレーション・ディストラクションを取り入れた看護の方法を学ぶ。 6. 子どもの看護技術を修得する。			
内容 1～2. 子どものアセスメント、フィジカルアセスメント 3. 検査・処置を受ける子どもの看護 4. 子どもの与薬 5. 輸液療法 6. 小児におこなわれる処置		7～8. 子どもの症状に応じた看護 9. 外来における看護 10～11. 在宅・災害時の看護 12. 子どもの疾病の経過と看護 13. コミュニケーション技術 14. 子どもの疾病の経過と看護 15. 筆記試験	
教科書 小児看護学概論、小児臨床看護学(医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 80点 課題レポート 20点	
その他の事項 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が小児看護学方法論Ⅰの授業を行う。			

授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ	講師名	吉村 文一、沖野、他
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	2単位 45時間
学修目標 1. 健康障害をもつ子どもの疾患や障害の理解および看護の方法を理解する。			
内容 1. 新生児の疾患 2. 先天性心疾患、小児神経疾患 3. 急性疾患、感染症		10. 各疾患のある新生児の看護 11～12. 慢性疾患の子どもの看護 13. 先天性心疾患の看護 14～15. 急性疾患の子どもの看護	

4. 先天性形態異常 5～6. 慢性疾患 7. 悪性疾患 8～9. ハイリスク新生児の支援	16～18. 看護過程展開 19. 小児神経疾患の看護 20～22. 予後不良の子どもの看護 23. 筆記試験
教科書 小児看護学概論、小児臨床看護学 (医学書院)	
授業の形態・方法 講義	評価方法 1～7. 筆記試験 60点 10～22、筆記試験 40点 (うちレポート10点)

母性看護学の構成

6単位 195時間

目的：多様化する女性のライフサイクルを理解し、あらゆる社会的関係の出発点となる母子関係を形成し次世代の健全育成という役割を担う女性の生涯を通じた健康の維持・増進・疾病の予防・回復をめざし、人間愛と生命の尊厳に基づいた看護実践ができる基礎的能力を養う。

- 目標：1. 多様化する女性のライフサイクルを身体的・精神的・社会的側面から学び、母性看護の対象を理解する。
 2. 母性看護の変遷と現状を知り、母性看護の目的を理解する。
 3. ライフサイクル各期の女性の健康課題について理解し、各期の看護について学ぶ。
 4. 女性特有の疾病治療過程にある対象を理解し健康の維持・増進・疾病の予防や回復するための看護について理解する。
 5. マタニティサイクル期における対象の特性を身体・心理・社会的側面から学び、その適応過程を理解する。
 6. マタニティサイクル期における対象の健康の維持・増進・疾病の予防や回復するための看護について学ぶ。

講義科目	単位	時間	学年	目 標
母性看護学概論	1	30	1	1. 人間の性・生殖の意義を考え、母性の概念・特性を理解する。 2. 母子の健康を取り巻く現状を知り、母性看護の目的を理解する。 3. ライフサイクルの各期の母性としての特性を身体的・心理的・社会的側面から理解する 4. 現代社会における母性のニーズと看護および倫理について考える。 5. 健康の維持・増進にむけての看護の目的について理解する。
母性看護学方法論Ⅰ	1	15	2	1. 女性特有の健康障害の特徴を理解する。 2. 女性特有の疾病・治療について理解する。 3. 女性の健康障害が及ぼす影響を踏まえ、女性の健康障害に対する看護について理解する。
母性看護学方法論Ⅱ	1	30	2	1. 正常な妊娠の成立機序と妊娠各期の経過を理解し、健康管理に必要な看護および技術を理解する。 2. 妊娠に関する健康障害や合併症妊娠の母子管理について理解する。 3. 正常分娩の経過を理解し、産婦とその家族が主体的に出産に臨み、安全安楽な分娩のために必要な看護および技術を理解する。 4. 分娩期に起こりやすい異常について理解し、母子の看護を理解する。
母性看護学方法論Ⅲ	1	30	2	1. 産褥期における経過を理解し、セルフケアにむけて必要な看護および技術を学ぶ。 2. 産褥期における健康障害や合併症をもつ産褥の母子管理について理解し、必要な看護を学ぶ。 3. 正常な早期新生児の経過および成長発達を理解し、母子関係を促進させ、必要な看護および技術を学ぶ。 4. 産褥期・新生児期の事例展開を通して産褥期・新生児期の看護について学ぶ。
母性看護学実習	2	90	3	1. 妊婦の身体的特性と心理・社会的特徴が理解できる。 2. 産褥婦の身体的変化・心理的变化が理解できる。 3. 褥婦の健康生活の維持と母子関係成立への援助が理解できる。

			<p>4. 新生児の胎外生活適応への援助が理解できる。</p> <p>5. 地域における女性の健康問題や子育てに関する問題への支援が理解できる。</p> <p>6. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。</p>
--	--	--	--

授業科目名	母性看護学概論	講師名	野尻 千香
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標	<p>1. 人間の性・生殖の意義を考え、母性の概念・特性を理解する。</p> <p>2. 母子の健康を取り巻く現状を知り、母性看護の目的を理解する。</p> <p>3. ライフサイクルの各期の母性としての特性を身体的・心理的・社会的側面から理解する。</p> <p>4. 現代社会における母性のニーズと看護および倫理について考える。</p> <p>5. 健康の維持・増進にむけての看護の目的について理解する。</p>		
内容	<p>1. 命について</p> <p>2～3. 母性とは、母子関係と家族発達、セクシュアリティ</p> <p>4. 母性看護をめぐる歴史と母子保健の現状</p> <p>5. 母性に関する組織や法律</p> <p>6. 母性を取り巻く環境</p>	<p>7. 母性看護の対象</p> <p>8～9. 女性のライフサイクル各期における看護</p> <p>10～12. リプロダクティブヘルスケア</p> <p>13. 母性看護と倫理</p> <p>14. 母子をめぐる現状と課題</p> <p>15. 筆記試験 まとめ</p>	
教科書	母性看護学概論(医学書院)		
授業の形態・方法	講義	評価方法	筆記試験 60分 100点
その他の事項	看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が母性看護学概論の授業を行う。		

授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ	講師名	石田雄三、野尻
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 15時間
学修目標	<p>1. 女性特有の健康障害の特徴を理解する。</p> <p>2. 女性特有の疾患・治療について理解する。</p> <p>3. 女性の健康障害が及ぼす影響をふまえ、女性の健康障害に対する看護について理解する。</p>		
内容	<p>1. 身体的性・ジェンダーアイデンティティに関する疾患と障害</p> <p>2. 月経異常、更年期における健康障害、性病</p> <p>3. 子宮筋腫、子宮内膜症、絨毛疾患</p> <p>4. 子宮頸がん、子宮体がん、卵巣腫瘍</p>	<p>5. 女性生殖器看護の特徴</p> <p>6. 子宮がん患者の看護</p> <p>7. 壮年期における乳がん患者の看護</p> <p>8. 筆記試験 まとめ</p>	
教科書	母性看護学概論、成人看護(女性生殖器)(医学書院)		
授業の形態・方法	講義	評価方法	筆記試験 60分 100点(1～4. 70点、5～7. 30点)

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ	講師名	澤田雄至、北美千代、野尻
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標	<p>1. 正常な妊娠の成立機序と妊娠各期の経過を理解し、健康管理に必要な看護および技術を理解する。</p> <p>2. 妊娠に関する健康障害や合併症妊娠時の母子管理について理解する。</p> <p>3. 正常な分娩経過を理解し、産婦とその家族が主体的に出産に臨み、安全安楽な分娩のために必要な看護および技術を理解する。</p> <p>4. 分娩期に起こりやすい異常について理解し、母子の看護を理解する。</p>		
内容	<p>1～2. 正常妊娠について</p> <p>3. 異常妊娠</p> <p>4. 正常分娩</p> <p>5～6. 異常分娩</p>	<p>10. 不妊症の看護</p> <p>11～12. 妊婦と胎児のアセスメント</p> <p>13～14. 妊婦と家族の看護</p> <p>15. 異常妊娠の看護</p>	

7. 分娩の経過、散布・家族のアセスメント 8. 散布へのかかわり方、異常の早期発見 9. 異常分娩、NST の見方	16. 筆記試験
教科書 母性看護学概論、母性看護学各論 (医学書院)	
授業の形態・方法 講義	評価方法 筆記試験 60分 100点 (1～6. 50点、7～9. 30点、10～15(20)点うちレポート10点、)

授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ	講師名	石田雄三、澤田雄至、野尻
実施年次・時期	2年次 後期	時間数 (単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 産褥期における経過を理解し、セルフケアにむけて必要な看護及び技術を学ぶ。 2. 産褥期における健康障害や合併症産褥の母子管理について理解し、必要な看護を学ぶ。 3. 正常な早期新生児の経過および成長・発達を理解し、母子関係を促進させ、必要な看護及び技術を学ぶ 4. 産褥期・新生児期の事例展開を通して産褥期・新生児期の看護について学ぶ			
内容 1. 産褥の生理 2. 新生児の生理 3. 産褥期における看護 4. 産褥期の健康状態のアセスメント 子宮復古状態の観察・・・● 5. 育児技術のかかわる看護 沐浴・・・●、臍の消毒・・・● 6. 産褥異常と看護 7. 新生児の看護		8. 母性看護学における看護過程展開 9～10. 妊娠期の看護過程展開 11～14. 産褥期・新生児の看護過程展開 15. 筆記試験	
教科書 母性看護学概論、母性看護学各論 (医学書院)			
授業の形態・方法 講義	評価方法 1. 15点、2.15点筆記試験 3～7. 筆記試験 70点うちレポートも含む		

精神看護学の構成

6単位 195時間

目的：あらゆるライフサイクルの段階にある対象の、こころの健康と不健康状態を一つの連携帯として理解し、健康な状態に向けての看護を展開していくことができる能力を養う。

- 目標：1. 人のこころの発達とこころの健康について理解し、こころの健康の維持増進のために必要な知識を学ぶ。
 2. 精神保健看護における看護の機能を、保健・医療・福祉との関連において理解する。
 3. こころの健康・不健康状態と環境や社会の相互作用を理解する。
 4. 自己および他者に対する理解を深め、互が一人の人間として尊重し合い、援助していくための知識と技術を学ぶ。

講義科目	単位	時間	学年	目 標
精神看護学 概論	1	30	1	1. 精神保健の基礎を学び、人間は環境や社会の相互作用の中で生きていく存在であることを理解する。 2. 環境や社会と精神看護の基礎的關係を学び、精神保健活動の課題を学ぶ。
精神看護学方 法論Ⅰ	1	30	2	1. 精神疾患の特徴を理解し、状態や状況に応じた看護を理解する。 1) 精神疾患の理解 疾病論 2) 精神科での治療 治療論 3) 精神保健の考え方 4) 問題状況把握と看護 (⑦回復を助ける、安全を守る)
精神看護学方 法論Ⅱ	1	15	2	1. 精神看護の役割と援助技術を理解する。 2. 精神疾患患者の保健保持・増進の視点から、日常生活援助および地域精神保健について理解する。 1) 精神疾患のある患者の日常生活援助 2) 患者と家族を取り巻く地域精神看護 3) 生活の場と精神保健 4) 臨床におけるこころの健康
精神看護学方 法論Ⅲ	1	30	2	1. 精神疾患に特徴的な症状に対応した看護の過程を理解する。 1) 統合失調症で、幻聴・妄想の陽性症状のある患者の看護 2. 治療環境に伴う精神症状に対応した看護の過程を理解する。 2) 夜間せん妄で回復過程に影響を受けている患者の看護
精神看護学実 習	2	90	3	1. 精神医療における病院の特徴や看護の役割が理解できる。 2. 精神機能を障害された対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 3. 対象の健康状態をアセスメントし、全体像が理解できる。 4. 看護問題を明確にし、日常生活に必要援助計画の立案・実施・評価ができる。 5. 精神機能を障害された対象と家族が置かれている社会的環境、地域の中の医療、社会資源について理解できる。 6. 患者—看護師関係における治療的プロセスの重要性が理解できる。 7. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。

授業科目名	精神看護学概論	講師名	橋本 龍也
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 精神保健の基礎を学び、人間は環境や社会の相互作用の中で生きていく存在であることを理解する。 2. 環境や社会と精神看護の基礎的関係を学び、精神保健活動の課題を学ぶ。			
内容 1. 精神看護で学ぶこと 2. 精神保健の考え方 3. 人間のこころの働きとパーソナリティ 4. 心の仕組みと人格の発達 5. 無意識と精神分析 6. 対象関係論 7. 全体としての家族		8. 人間と集団 9. 精神医療の歴史、法制度 10～11. 精神保健福祉法 12. 障がい者基本法と障がい者総合支援法 13. 精神科看護に関する法律 14. 法律、制度における課題 15. 筆記試験	
教科書 精神看護の基礎、精神看護の展開 (医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が精神看護学概論の授業を行う。			

授業科目名	精神看護学方法論Ⅰ	講師名	林 皓章、深田亮介、大畑由美子
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 精神疾患の特徴を理解し、状態や状況に応じた看護を理解する。			
内容 1～7. 代表的な精神疾患の歴史・分類・原因・病態・診断・治療 統合失調症、気分障害、てんかん、神経症、人格障害、器質性精神障害、アルコール症、薬物中毒、児童青年期精神障害		8. 精神疾患とは、患者理解 9～11. 症状別看護 幻覚、妄想、興奮、暴力、強迫、混迷、陰性症状、抑うつ、そう状態、無為など 12. 統合失調症、気分障害の看護 13. パーソナリティ障害、アルコール依存症の看護 14. 入院時、隔離、拘束、退院支援、災害時の看護 15. まとめ 16. 筆記試験	
教科書 精神看護の基礎、精神看護の展開 (医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点 (1～7. 50点、8～15. 50点)	

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ	講師名	橋本 龍也
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 15時間
学修目標 1. 精神看護の役割と援助技術を理解する。 2. 精神疾患患者の健康保持・増進の視点から、日常生活援助および地域精神保健について理解する。			
内容 1. ケアの間関係 2. 身体をケアする 3. 身体問題へのアプローチ 4. サバイバーとしての患者とそのケア 5. 地域における精神保健と精神看護		6. 災害と精神看護 7. リエゾン精神看護と看護師のメンタルヘルス 8. 筆記試験	
教科書 精神看護の基礎、精神看護の展開 (医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が精神看護学方法論Ⅱの授業を行う。			

授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ	講師名	橋本 龍也
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 精神疾患に特徴的な症状に対応した看護の過程を理解する。 2. 治療や環境が精神に影響を及ぼしている場合に対応した看護の過程を理解する。			
内容			

1. 精神看護における看護診断 2～7. 事例展開 統合失調症	8～14. 事例展開 アルコール依存症、せん妄 15. 筆記試験
教科書 精神看護の基礎、精神看護の展開（医学書院）	
授業の形態・方法 講義	評価方法 筆記試験 60分 70点、レポート 30点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が精神看護学方法論Ⅲの授業を行う。	

在宅看護論の構成

6単位 195時間

目的：地域で生活する療養者や障害者とその家族を理解し在宅看護が実践できる基礎的な能力を養う。

目標：1. 地域で生活する療養者や障害者と家族に対する看護の意義と役割を理解する。

2. 地域で生活する療養者や障害者と家族のケアニーズに応じた看護の方法を理解する。

3. 在宅療養者の発達段階や健康障害の特徴に応じた看護の方法を理解する。

講義科目	単位	時間	学年	目標
在宅看護概論	1	30	1	1. 地域で生活する療養者や障害者とその家族に対する看護の意義と役割を理解する。
在宅看護方法論Ⅰ	2	45	2	1. 個別な生活環境に応じて在宅での療養生活に必要な日常生活援助を理解する。 2. 在宅で展開される医療技術とそれに伴う看護を理解する。 3. 在宅ケアにおける関連機関・関係職種との連携、看護師の役割を理解する。 4. 在宅看護の展開を理解する。
在宅看護方法論Ⅱ	1	30	2	1. 在宅療養者の発達段階や健康障害の特徴に応じた看護の方法を理解する。
在宅看護論実習	2	90	3	1. 地域における医療（訪問看護ステーション）・社会福祉施設の概要・役割が理解できる。

			<p>2. 在宅療養をしている利用者とその家族の生活状況を踏まえた療養上の問題が理解できる。</p> <p>3. 対象の療養生活に応じて提供している看護技術の特徴が理解できる。</p> <p>4. 在宅療養に適応されている支援システムが理解できる。</p> <p>5. 地域で生活する対象の自己実現のための支援について理解できる。</p> <p>6. 関連する職種との連携の重要性が理解できる。</p> <p>7. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。</p>
--	--	--	---

授業科目名	在宅看護概論	講師名	山崎 美知子
実施年次・時期	2年次 前期	時間数(単位)	1単位 45時間
学修目標 1. 地域で生活する療養者や障がい者とその家族に対する看護の意義と役割を理解する。			
内容		<p>8. 障がい者総合支援法、難病法、公費負担</p> <p>9. 地域包括システム</p> <p>10. 多職種連携</p> <p>11. 退院支援・退院調整</p> <p>12～13. 訪問看護とは</p> <p>14. マナー</p> <p>15. 筆記試験</p>	
1. 在宅看護の変遷とその社会背景			
2. 在宅看護の目的、看護師の役割、提供の場			
3. 在宅看護における倫理			
4. 療養者と家族の理解			
5～6. 在宅療養者と家族の支援			
7. 在宅看護に関する法令・制度(医療保険・介護保険)			
教科書 在宅看護論(医学書院)			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点	
その他の事項 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が在宅看護概論の授業を行う。			

授業科目名	在宅看護方法論 I	講師名	山崎美知子、他
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 個別な生活環境に応じた住宅での療養生活に必要な日常生活援助を理解する。 2. 在宅で展開される医療技術とそれに伴う看護を理解する。 3. 在宅ケアにおける関連機関・関連職種との連携、看護師の役割を理解する。 4. 在宅看護の展開を理解する。			
内容			
1～3. 在宅看護概論のまとめ、在宅療養者の生活を考える			
4～6. 国試対策 レスパイトケア、日常生活自立度、COPD、訪問看護制度、介護保険、訪問看護指示書など			
7～8. 症例別看護のグループワークガイダンス			
9～11. 褥瘡予防、便秘、尿道カテーテル、経管栄養、HOT、気管切開、リハビリ、服薬、インスリン療法、入浴介助			
12～13. 援助の演示			
14. 退院調整			
15. 在宅療養生活のストーマ管理・・・●			
16. 訪問看護の展開と実施			
17. 在宅療養生活における人工呼吸器・酸素管理			

18～19. 在宅療養生活における褥瘡予防、ケア	
20. 障害児の療養とケア	
21. 認知症サポート養成講座	
22. 地域福祉活動	
23. 筆記試験	
教科書 在宅看護論 (医学書院) NANDA 看護診断	
授業の形態・方法	講義 演習 評価方法 筆記試験 60分70点 レポート 30点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が在宅看護方法論Ⅰの授業を行う。	

授業科目名	在宅看護方法論Ⅱ	講師名	山崎 美知子
実施年次・時期	2年次 後期	時間数 (単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 在宅療養者の発達段階や健康障害の特徴に応じた看護の方法を理解する。			
内容	1～11. 事例展開 脳梗塞、糖尿病、アルツハイマー型認知症、 高血圧症、ALS、頸髄損傷、急性脳症、のうち 3事例の展開	12. アセスメントの解説 13. 関連図の解説 14. 看護計画の解説 15. まとめ	
教科書 在宅看護論 (医学書院)			
授業の形態・方法	講義	評価方法	レポート 100点
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が在宅看護方法論Ⅱの授業を行う。			

看護の統合と実践の構成

7単位 225時間

目的：臨床実践に近いかたちで知識・技術を統合させ、卒業後に臨床現場に適応する能力を養う。

講義科目	単位	時間	時期	目標
看護管理 医療安全	1	30	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の対象とその実践範囲について学ぶ 2. 質の高い看護を実践していくための看護の管理の方法を学ぶ。 3. 安全な医療および看護のための方法とその管理の実際を理解する。
災害看護学	1	15	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近年の災害看護の特徴と歴史をとおして災害看護の定義、倫理の重要性を理解する。 2. 災害看護の対象の特徴と看護の特徴について学ぶ。 3. 災害サイクルに応じた看護活動について知識と技術を修得する。 4. 災害関係者の心のケアの問題とケアの重要性、ケア方法を理解する。
国際看護学	1	30	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力の必要性と、国際看護活動に必要な知識を理解する。 2. 異文化の中の看護について考える。
看護の統合 と実践	1	30	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。 2. 臨床に近い環境を設定し、模擬患者への対応をとおして、卒業後の看護業務への動機づけとする。
看護研究Ⅱ	1	30	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習で受け持った症例について、理論に基づいて分析・考察し、その成果を論文としてまとめることができる。 2. 自分の意見を他者に伝えるプレゼンテーション力を養うことができる 3. 他者との意見交換をとおし、新たな観点・方法論を得て、さらに看護を深める。
統合実習	2	90	3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟における看護チームの構成と管理者の役割が理解できる。 2. リーダーシップ・メンバーシップの役割を理解し、チームの一員として適切に報告・連絡・相談ができる。 3. 夜間の療養環境と看護師の役割がりがりかいてできる。 4. 複数の患者を受け持ち、優先順位・時間管理・安全を考慮した援助が実践できる。 5. 主体的に学習する実習姿勢を身につける。

授業科目名	看護管理・医療安全	講師名	伊藤 照美、石川 澄恵
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護管理の対象とその実践範囲について学ぶ。 2. 質の高い看護を実践していくための看護の管理方法を学ぶ。 3. 安全な医療および看護のための方法とその管理の実際を理解する。			
内容 1. 看護管理とは、看護におけるサービス、ケアマネジメント 2. 看護を取り巻く諸制度、看護業の実践 3. 病院を創造する(設置目的、理念) 4. 病院を創造する(規範、病床数) 5. 病院を創造する(看護部の理念、教育システム) 6. 発表・評価		8. 医療安全の基礎、 9. 法律、組織での取り組み、ノンテクニカルスキル 10. 分析、グループワーク 11. 看護上起こりえる事故 12. 「SBAPR」について 13. 「KYT」について 14. 医療機器、暴言・暴力 15. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 100点 1～6. 50点、8～14. 50点	

授業科目名	災害看護学	講師名	沖野 久美子、松木 優子
実施年次・時期	2年次 後期	時間数(単位)	1単位 15時間
学修目標 1. 近年の災害看護の特徴と災害看護の歴史をとおして災害看護の定義、倫理の重要性を理解する。 2. 災害看護の対象の特徴と看護の特徴について学ぶ。 3. 災害サイクルに応じた看護活動について知識と技術を修得する。 4. 災害関係者の心のケアの問題とケアの重要性、ケアの方法を理解する。			
内容 1. 災害発生時の社会の対応や仕組みと活動 2. 災害看護の知識と技術の基本 3. 災害の定義 4. 災害の種類・災害サイクル		5. 体型的対応の基本原則 6. 災害時のトリアージ 7. トリアージと応急処置 8. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 80点 レポート20点	

授業科目名	国際看護学	講師名	中川 敬子
実施年次・時期	3年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 国際協力の必要性和、国際看護活動に必要な知識を理解する。			
内容 1～6. 国際看護とは、国際協力のしくみ、国際看護活動における看護の役割 7～10. 国際救援活動の現状と課題		11～14. 看護を通じた国際交流を体験し、異文化の看護を考える。 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 60分 80点 海外研修課題レポート 20点	

授業科目名	看護の統合と実践	講師名	中務 優子
実施年次・時期	3年次 前・後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。 2. 臨床に近い環境を設定し、模擬患者への対応をとおして、卒業後の看護業務への動機づけとする。			
内容 1. チーム医療・看護ケにおける看護師としての調整 2～11. 病棟チームの一員としてスタッフの業務役割・実践場面をイメージし、タイムマネジメントできる		12～14. 模擬患者の状態及び反応に合わせ、実践的に診療補助技術を活用して援助ができる。 OSCE 15. 筆記試験	
教科書 資料			
授業の形態・方法 講義		評価方法 筆記試験 45分 50点 レポート 50点	
その他の事項 看護師を取得後 5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護の統合と実践の授業を行う。			

授業科目名	看護研究Ⅱ	講師名	橋本龍也 他
実施年次・時期	3年次 前・後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標	1. 臨地実習で受け持った症例について、理論に基づいて分析・考察し、その成果をケースレポートとしてまとめる。 2. 自分の意見を他者に伝えるプレゼンテーション力を養う。 3. 他者との意見交換をおし、新たな観点・方法論を得て、さらに看護を深める。		
内容	1～2. ケーススタディの目的、進め方、書き方、文献 3～6. テーマと骨子の作成 7～10. 論文作成 11～14. 発表 15. 振り返り自己の課題の明確化		
教科書 資料			
授業の形態・方法	講義	評価方法	レポート 100点